

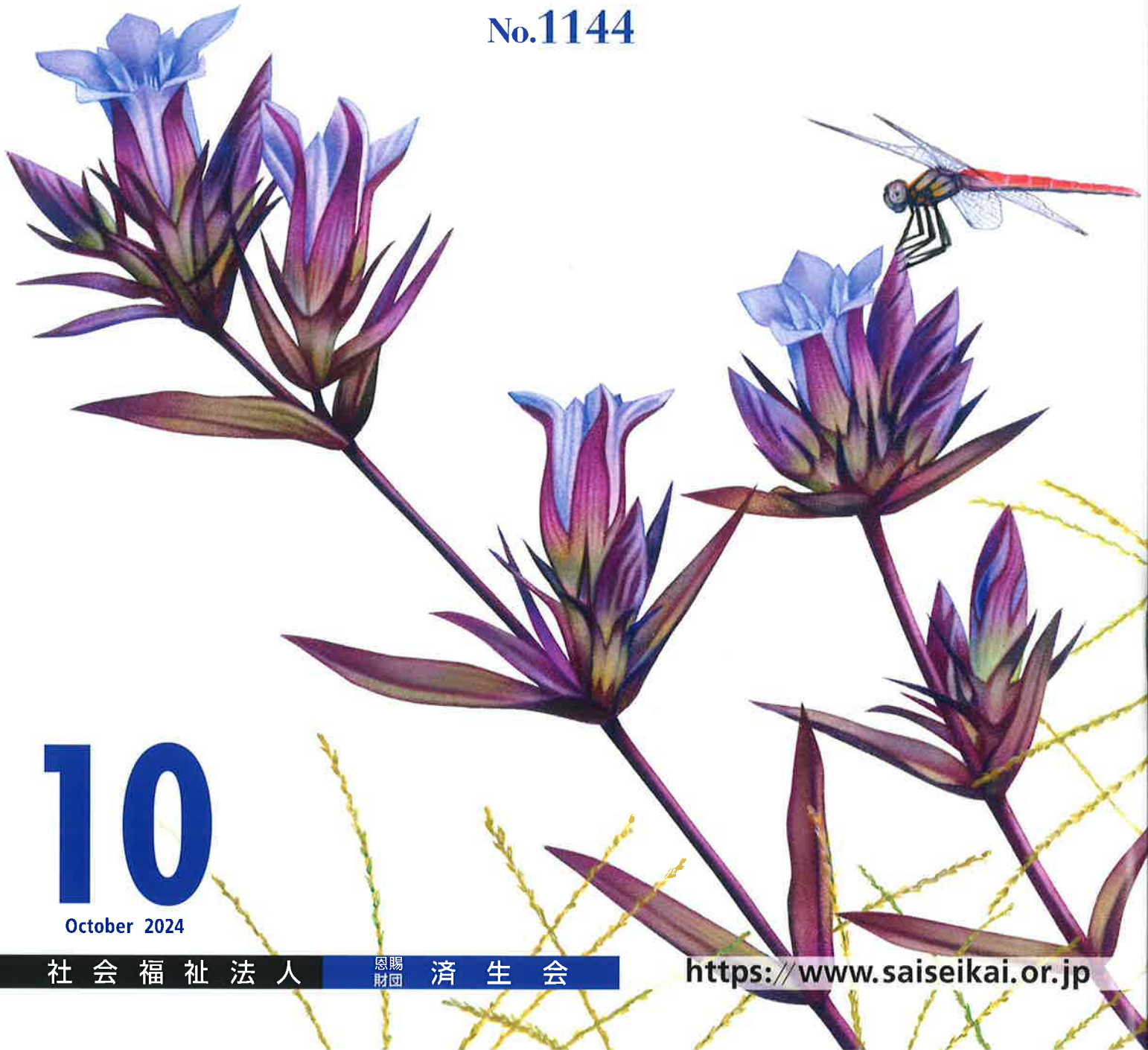
濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1144

「NEWSな濟生人」
全国でも数少ない
小児泌尿器科を開設



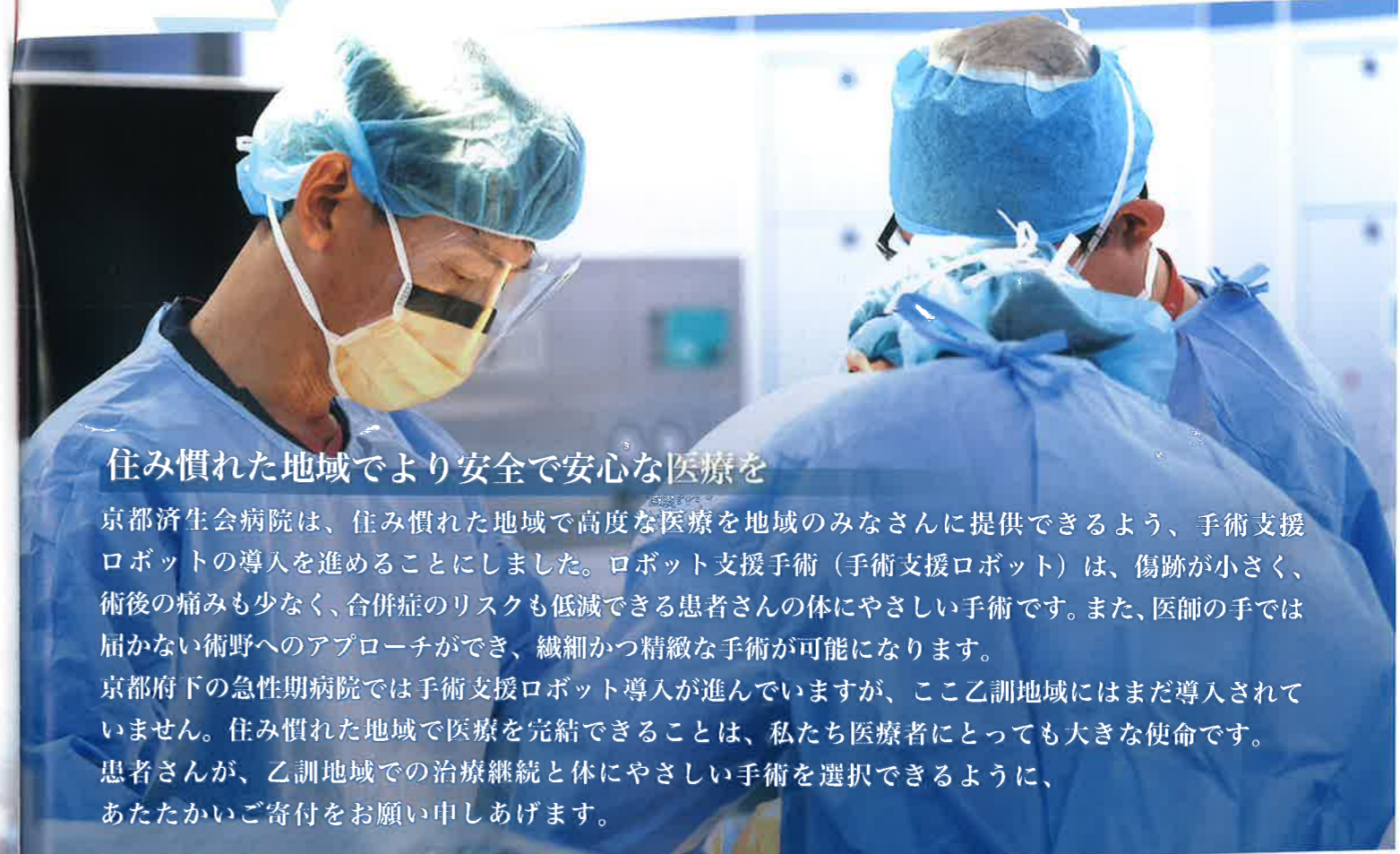
10

October 2024

社会福祉法人 恩賜財団 濟生会

<https://www.saiseikai.or.jp>

京都乙訓の地域医療を支える 手術支援ロボット導入へご支援を



住み慣れた地域でより安全で安心な医療を

京都済生会病院は、住み慣れた地域で高度な医療を地域のみなさんに提供できるよう、手術支援ロボットの導入を進めることにしました。ロボット支援手術（手術支援ロボット）は、傷跡が小さく、術後の痛みも少なく、合併症のリスクも低減できる患者さんの体にやさしい手術です。また、医師の手では届かない術野へのアプローチができ、繊細かつ精緻な手術が可能になります。京都府下の急性期病院では手術支援ロボット導入が進んでいますが、ここ乙訓地域にはまだ導入されていません。住み慣れた地域で医療を完結できることは、私たち医療者にとっても大きな使命です。患者さんが、乙訓地域での治療継続と体にやさしい手術を選択できるように、あたたかいご寄付をお願い申し上げます。

寄付募集 クラウドファンディング挑戦中

寄付募集期間 2024.9.2 [月] 19:00 ~ 2024.11.30 [土] 23:00

第一目標金額 | 1500万円 | ご寄付の使い道 | 手術支援ロボットの購入費の一部

寄 附 金 控 除 対 象



クラウドファンディングとは

インターネットを通して活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から資金を募る仕組み。

※本プロジェクトは All in 方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。ご寄付確定後の返金やキャンセルは、ご対応致しかねますので、何卒ご了承ください。

©2024 Intuitive Surgical Operations, Inc.

READYFOR

ご寄付・詳細は下記のサイトをご覧ください

<https://readyfor.jp/projects/kyotosaiseikai2024>

京都済生会病院 レディーフォー

検索



済生会は超高齢社会を元気に

日本の高度成長期が終わろうとする1970年頃、アメリカ事情に詳しい旧厚生省の先輩は、「アメリカに、退職した高齢者が集まって暮らすサンシティという都市がある。一度訪問すると参考になる」と話してくれた。当時は海外旅行が珍しく、アメリカは憧れの存在だった。先輩の情報通に驚きつつ、「さすがアメリカだ。高齢者の町があるなんて」と記憶に長く残った。サンシティは、アメリカ南部のアリゾナ州の砂漠に1960年頃に不動産会社が、人工的に建設した都市である。55歳以上の退職者を対象に住宅を建設し、病院、ショッピングセンター、銀行、スポーツ・娯楽施設などを整備した。現在では約4万人



済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani

が住んでいるが、住宅価格が高く、生活費が相当必要だから、経済的に恵まれた高齢者でなければ、到底住めない。その後日本でもサンシティが知られるようになり、アメリカの福祉視察ツアーに組み込まれることがあった。「素晴らしいことだ。日本にも必要だ」とベタ誉めの訪問記を目にした。日本でバブル経済時代にサンシティのミニ版を建設した事業者がいたが、バブル崩壊とともに経営破綻したと聞く。旧通産省が1986年に大々的にぶち上げた「シルバークロニア計画」も同様な発想だった。当時の日本の経済力を使って、海外に日本人高齢者の居住地を建設する計画だったが、「老人輸出だ」と痛烈な批判を浴び、早々に引き下げられた。

超高齢社会になった今の日本では、サンシティ構想は、検討の対象にも値しない。富裕な高齢者だけが暮らす都市という発想には、賛成できないし、社会は、子ども、若者、障害者、シングル世帯など様々な人が暮らすというダイバーシティこそが、自然な姿である。

日本は、高齢化率29・3%の超高齢社会で、世界トップをひた走る。

超高齢社会では経済、雇用、交通、健康、介護、福祉、教育など各般にわたる課題を抱える医療と福祉両者を業務とする日本最大の民間公益団体である済生会は、「超高齢社会対応のまちづくり」を目指し、対策の中心を担わねばならない。

中心になる病院は、住民に密着した医療を提供し、在宅看護、在宅介護、特養などの医療・介護・福祉サービスを、他の開業医等と連携を取りながら、シームレスに提供する。

効率化のためには、DXやロボットの活用、医療・福祉機器の開発が必要になる。集積される医療や介護のデータは、価値が高い。これらの関連産業を誘致すれば、経済や雇用が拡大し、人口は増える。

さらに教育、余暇活動、環境などの他の要素も組み込んだ大きな構想を推進すれば、超高齢社会を以前に増して元気にできることを日本から世界に発信できる。



10月のたよりが聞こえる リンドウ

日本全国に広く分布し、ブルーや紫、ピンクなど鮮やかな鐘型の

花びらを持つリンドウ。秋の山野草の代表として親しまれているが、近年は品種改良で春咲きのリンドウも生まれている。

リンドウの和名は「竜胆」。根がとても苦く、消化不良や食欲不振などに対する薬草として用いられ、同じく非常に苦い薬として知られる「熊の胆」以上に苦いという意味で竜胆の「竜胆」と名づけられたそう。

龍といえは架空の生き物だが、水を司

る神様として、古には雨を降らせる農耕の神様や豊漁の神様、その後、豊漁・豊作以外にも強力なご利益をもたらしてくれる神様として日本全国のさまざまな神社で崇拜されている。

東京都西東京市にある田無神社には全国的にも珍しく、中国の五行思想に基づいた青・白・赤・黒・金の五龍神が祀られている。五龍神にはそれぞれ違った御神徳があり、ここを参拝するだけであらゆる面でのご利益が期待できるそう。加えて、一番人気の「五龍神おみくじ」の入れ物である陶器でできた龍神様を全種類集めて家に飾れば、全ての方位を守ってもらえそう。

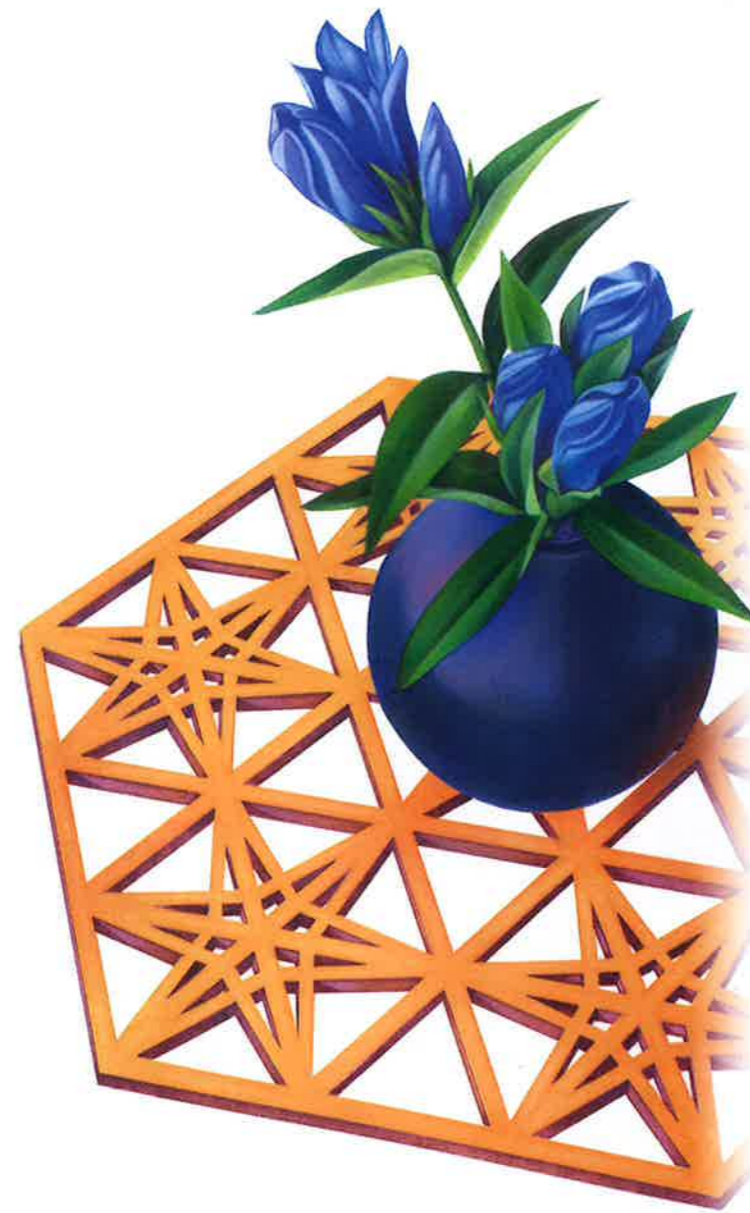
10月には各神社で年に1度行なわれる最も重要な祭礼、例大祭もある。タイミングとして辰年なのもあと少し。みなさんも五龍神を参拝しに行きながらリンドウを探したら、ダブルご利益があるかもしれませんよ？

表紙のことば 清秋の中で立つ侍のごとし

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

作家吉川英治氏が愛した花、リンドウ。秋の少し疲れた草原にすくと頭を出して咲くリンドウの花は、凜として佇む侍のようにも見えます。竜胆——名前由来は薬効の高い根が竜の肝のように苦い

から、と。ご存知ですか、竜の肝の味？ どうやら「竜」は最上級という意味らしい——。家紋にも使われているリンドウの花、佇まいがなぜか女性というより凜とした男性を思わせる美しい秋の花です。



濟生

SAISEI

CONTENTS

OCTOBER, 2024

NEWSな濟生人

全国でも数少ない小児泌尿器科を開設
(鹿児島) 川内病院
泌尿器科・小児泌尿器科主任部長 06

井手迫俊彦さん

濟生会交差点

〈看護補助者発!〉医療・介護の質向上と職員負担軽減。出前講座で地域の福祉力向上も／〈利用者目線で健康増進〉オリジナル体操で「生き生き」。楽しみながら課題を克服 10

小樽くらしたい 共生フェス 2024

誰もが共に学び、健康にすごせる「まち」を創造する 18

連載 機関誌「濟生」が 創刊100年!

巻頭コラム 濟生会の不易流行論 03
濟生会は超高齢社会を元気に 理事長 炭谷 茂

10月のたよりが聞こえる リンドウ 05
表紙のことば 久保田真由美

ソーシャルインクルージョン 21

この人 中村 蒼 26

口福にっぽん 吉井省一 28

だれでもかんたん てづくりおもちゃ 30
いまいみさ

TOPICS 32

大雑報 87

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL



大人の泌尿器科の手術では2023年10月に導入した手術支援ロボットを用いて前立腺がんの手術などを行なっている

い領域ですか。
井手迫 欧米では1950年代以降に小児

泌尿器科学が学問体系としてできましたが、日本では1960年代から活発に研究されるようになり、米国では泌尿器科学の最新の教科書は3巻に分かれています。そのうちの1つは小児泌尿器科学で、泌尿器科の中で重要な領域となっています。
荒木 具体的にはどのような疾患がありますか。
井手迫 小児泌尿器科の代表的な疾患の一つに、尿道が陰茎の先端まで届かず、途中で尿

道口があるため、男児がおしっこを立てることが難しい「尿道下裂」があります。そのほか、精巣（睾丸）に血液を供給する血管がねじれて、精巣への血流が途絶え、壊死を起こす「精索捻転症」、腎臓や尿管が先天的に腫れている「水腎症」、生まれつき精巣が陰嚢内にはない「停留精巣」また、「夜尿症（おねしょ）」や「昼間尿失禁」などがあります。



泌尿器科・小児泌尿器科のスタッフ。子どもの健康と成長をサポートしている

「地方でも大都市と同水準の医療を」高度な技術を習得して鹿児島へ
荒木 川内病院は救急・がん・小児周産期・災害・へき地医療などの拠点を担っていますが、どういう経緯で小児泌尿器科が開設されたのですか。
井手迫 私はこの領域を専門にして16年になります。以前は鹿児島大学病院で小児が

どのぐらいの患者がいますか。
井手迫 さまざまな研究報告がありますが、尿道下裂はおよそ1000人に1人の割合といわれます。精索捻転症はおよそ4000〜2万人に1人、水腎症はおよそ5000人に1人ととされています。3カ月・6カ月健診で見つかることが多い停留精巣は約1〜2%、夜尿症は7歳児の10%程度、昼間尿失禁は小学生の約6%といわれています。
荒木 小児泌尿器科を標榜する医療機関はあまり見たことがないように思います。
井手迫 小児の尿路や生殖器に特化した小児泌尿器科がある医療機関は多くありません。日本小児泌尿器科学会が認定する専門医は全国に202人いますが、専門医のいない県もあります。鹿児島県にある医療機関の泌尿器科で専門医がいるのは当院だけです。私を含め2人の専門医が常勤しています。

*写真撮影時のみマスクを外しています

〈鹿児島〉川内病院
泌尿器科・小児泌尿器科主任部長

井手迫俊彦 さん

全国でも数少ない小児泌尿器科を開設



生まれつきの疾患が多い 小児泌尿器科 どこに住んでいても治療できる体制に

日本には数少ない小児専門の小児泌尿器科がある川内病院。手術が必要な疾患から夜尿症など身近なトラブルまで幅広く対応しています。小児泌尿器科の形成手術や腹腔鏡手術を受けるために、当院がある北薩摩地域だけでなく、鹿児島市や離島など、県内全域から患者が来院するといえます。泌尿器科・小児泌尿器科主任部長の井手迫俊彦さんに話を伺いました。
(横浜市東部病院 済生記者 荒木愛美)

荒木 小児泌尿器科とはどのような診療科ですか。
井手迫 小児の尿路（腎臓、膀胱など）と外陰部を含む生殖器の疾患を対象に専門的な治療を行なう診療科です。一般の泌尿器科が対象とする疾患は主にがん、結石、感染症などで、患者は高齢者が中心です。これに対して、小児泌尿器科で扱う疾患の大部分は先天性のもので、その多くは外科的治療を必要とします。
荒木 診療科としては新しく

一般の泌尿器科に併設することで

シームレスな 診療が可能に



川内病院の外来ロビー。井手迫さんとインタビュアーの荒木さん



小児泌尿器科スタッフ。日本小児泌尿器科学会が認定する専門医が2人常勤している



誰に対しても安心感を与える医療をモットーに子どもや親に向き合う

荒木 同じ環境でシームレスに診療できるのは素晴らしいですね。当院には小児肝臓消化器科があります。将来命に関わるような疾患を予防するために小児期の便秘、肥満に対する注意を呼びかけています。小児泌尿器疾患で保護者が見落としがちなことあればアドバイスをお願いします。井手迫 確かに子どもの便秘は小児泌尿器

荒木 同じ環境でシームレスに診療できるのは素晴らしいですね。当院には小児肝臓消化器科があります。将来命に関わるような疾患を予防するために小児期の便秘、肥満に対する注意を呼びかけています。小児泌尿器疾患で保護者が見落としがちなことあればアドバイスをお願いします。井手迫 確かに子どもの便秘は小児泌尿器

は異なる特殊性がありますので、手術手技だけでなく、知識や考え方も含めて専門性が求められます。私は、国内でも小児泌尿器科のハイポリウムセンターである大阪母子医療センターでトレーニングを受けました。大阪での国内留学中、鹿児島からわざわざ来阪し手術を受ける患者が少なくないことが分かったのです。当時、医師になつて7、8年の私はその事実にならなからず衝撃を受けました。その後大学に戻り、地方でも東京や大阪と同じ水準の医療を提供するために自分にできることを模索しました。

荒木 日本が抱える医療格差の一端を目的の当りにした。井手迫 私は2007年にも当院に勤務した経験があり、そのとき済生会の理念に共感しました。私は、医療は誰にでも分け隔てなく提供されるべきであると考えています。そんなポリシーを實踐できる場として、2019年に当院に着任し、泌尿器科に小児泌尿器科を開設しました。南九州で小児泌尿器科が発展するための拠点の一つになればと思っています。

【取材を終えて】小児泌尿器科は大人になってからの人生にも影響するため、高度な技術習得だけでなく後進育成も重要だと感じました。地域の医療格差を解消すべく鹿児島に拠点を構え、

井手迫 相手が子どもだからといって、ごまかしたり、はぐらかしたりはしません。患者がただ泣きわめくだけでも、言葉の使い方に配慮して、どんな検査をして、どのように治療をするのかを少しでも分かってもらえるように努力します。なおかつ、恐怖を与えないようなコミュニケーションを大切にしています。荒木 子どもでも一人の患者として接し、自分の体のことを知ってもらうことは大切です。井手迫 適当に嘘をついたり、言いくるめたりすると、二度と信じられず、診察のときにお腹も見せてくれなくなりそうです。荒木 横浜市東部病院ではCLS (Child Life Specialist) という専門職が子どもとその家族への医療を支援しています。井手迫 そういう人材は病院内の医療者にとっても心強い存在ですね。小児泌尿器科で手術した子どもを成人後もフォローできることが強み



井手迫 相手が子どもだからといって、ごまかしたり、はぐらかしたりはしません。患者がただ泣きわめくだけでも、言葉の使い方に配慮して、どんな検査をして、どのように治療をするのかを少しでも分かってもらえるように努力します。なおかつ、恐怖を与えないようなコミュニケーションを大切にしています。荒木 子どもでも一人の患者として接し、自分の体のことを知ってもらうことは大切です。井手迫 適当に嘘をついたり、言いくるめたりすると、二度と信じられず、診察のときにお腹も見せてくれなくなりそうです。荒木 横浜市東部病院ではCLS (Child Life Specialist) という専門職が子どもとその家族への医療を支援しています。井手迫 そういう人材は病院内の医療者にとっても心強い存在ですね。小児泌尿器科で手術した子どもを成人後もフォローできることが強み

荒木 小児の泌尿器疾患の診療には高度な技術が求められるのです。成人と小児の泌尿器疾患の診療には、成人と

わせ、二次性徴までフォローするケースが多いですが、成人としての診察体制は確立しているとはいえません。荒木 そうなのですね。井手迫 ただし、当院にはもともと泌尿器科があり、そこに小児泌尿器科が併設されたので、小児期に治療を受けて、必要に応じて引き続き成人後も受診できるのは患者にとって安心であり、当院の強みといえます。

井手迫 小児で発症した患者の成人後の治療については難しい面もありますか。井手迫 小児泌尿器科の多くの疾患は赤ちゃんの時に手術をして、その後の成長に合

わせ、二次性徴までフォローするケースが多いですが、成人としての診察体制は確立しているとはいえません。荒木 そうなのですね。井手迫 ただし、当院にはもともと泌尿器科があり、そこに小児泌尿器科が併設されたので、小児期に治療を受けて、必要に応じて引き続き成人後も受診できるのは患者にとって安心であり、当院の強みといえます。

井手迫 相手が子どもだからといって、ごまかしたり、はぐらかしたりはしません。患者がただ泣きわめくだけでも、言葉の使い方に配慮して、どんな検査をして、どのように治療をするのかを少しでも分かってもらえるように努力します。なおかつ、恐怖を与えないようなコミュニケーションを大切にしています。荒木 子どもでも一人の患者として接し、自分の体のことを知ってもらうことは大切です。井手迫 適当に嘘をついたり、言いくるめたりすると、二度と信じられず、診察のときにお腹も見せてくれなくなりそうです。荒木 横浜市東部病院ではCLS (Child Life Specialist) という専門職が子どもとその家族への医療を支援しています。井手迫 そういう人材は病院内の医療者にとっても心強い存在ですね。小児泌尿器科で手術した子どもを成人後もフォローできることが強み

井手迫 相手が子どもだからといって、ごまかしたり、はぐらかしたりはしません。患者がただ泣きわめくだけでも、言葉の使い方に配慮して、どんな検査をして、どのように治療をするのかを少しでも分かってもらえるように努力します。なおかつ、恐怖を与えないようなコミュニケーションを大切にしています。荒木 子どもでも一人の患者として接し、自分の体のことを知ってもらうことは大切です。井手迫 適当に嘘をついたり、言いくるめたりすると、二度と信じられず、診察のときにお腹も見せてくれなくなりそうです。荒木 横浜市東部病院ではCLS (Child Life Specialist) という専門職が子どもとその家族への医療を支援しています。井手迫 そういう人材は病院内の医療者にとっても心強い存在ですね。小児泌尿器科で手術した子どもを成人後もフォローできることが強み

日常業務でのふとしたきっかけから課題を見つけ、チームで改善



杖ホルダーは、マグネット式で杖が落ちにくい!!



小中高等学校、地域住民等に向いて行なうBLSの出前講座。看護補助者もインストラクターを務める



身体的・心理的ストレスが解消されたデータが得られた就業前体操



まちの保健室。豊浦リフレッシュパークのコスモス祭りに職員が参加。血圧測定や子どもの看護師ユニホーム試着などを通して住民と触れ合う

看護補助者の探求心と看護管理者の美点凝視

療養病棟では就寝時や食事時など、決まった時間になると音楽が流れます。音楽療法として

患者の心を落ち着かせ生活リズムを整える役割があるといえます。これは、平成17年度に取り

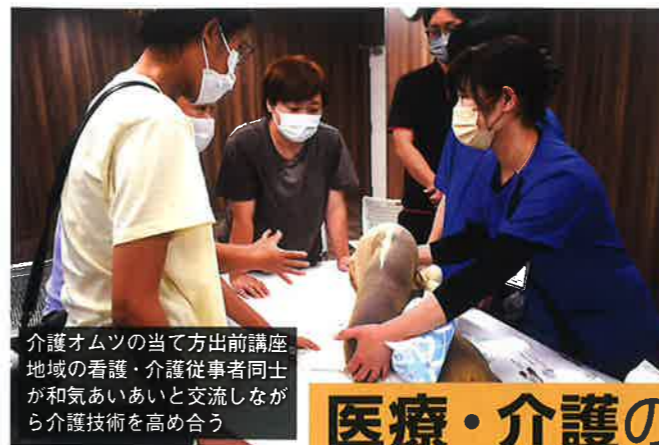
組んだ「日常生活に音楽を取り入れるの実践と評価」以降、現在まで続く取り組みで、介護成



取材に応じた看護補助者の齋藤善章さん(右)と大塚摩弥さん(左)。中央は看護師長の林美代子さん

が向上したことで、防水機能を持たせた「横シート」を廃止、患者の褥瘡防止にもつながりました。また、他法人の介護施設に当院の看護補助者が出向き、オムツの当て方講座を実施、地域の介護力向上につながっています。他にも職員の健康保持のために看護補助者が就業前に実施する体操では、今年度からストレッチを導入。看護師も加わり職員が無理なく実施しています。

業務改善につながった成果も看護補助者の介護オムツの当て方技術



介護オムツの当て方出前講座。地域の看護・介護従事者同士が和気あいあいと交流しながら介護技術を高め合う



退院する患者が「自宅に持ち帰りたい!」と話し、職員自作の杖ホルダー

医療・介護の質向上と職員負担軽減

出前講座で地域の福祉力向上も

看護補助者の介護成果発表会

〈山口〉
豊浦病院

豊浦病院には40人の看護補助者(うち29人は介護福祉士)が在籍。働きながら看護学校に通う学生や60代のパート勤務

まで幅広く活躍しています。看護師や看護補助者の人材不足により業務は煩雑ですが、同院では看護補助者による「介護成果発表会」を毎年行なっています。令和5年度の研究成果会は3月

13日に同院研修室で行なわれ、職員約20人が参加し、レコーディングもしました。どのような取り組みなのか同院を取材しました。(本部広報課 河内淳史)

どのような目的でいつから実施している?

業務を言語化して、形にし、その成果を職員で共有することを目的に平成13年度に「介護研究」として開始。20年以上続いていきます。令和4年度からは名称を「介護成果発表会」に変更しました。

発表者は誰? テーマは? 豊浦病院の看護補助者と、隣接する老健ひびき苑の介護職員が対象。研究・発

表す病棟は輪番制で、メンバーは看護師長が決めます。

活動のテーマは日常業務のふとしたきっかけで見つかります。現場で出された意見も参考にメンバーが話し合っマを決め、看護師長に報告。アドバイスを得ながらチーム活動を進めます。看護補助者のリーダーを置いて、現場の声を吸い上げる仕組みも有効に機能しています。

令和5年度のテーマは? ①杖置き装置(4階東病棟) ②患者ケアの充実のためのチームの関わり(5階西病棟) ③就業前体操による身体的・心理的効果(5階東病棟) ④転倒リスクの軽減策及び自立支援(老健ひびき苑)でした。

どんな発表内容? 4階東病棟(地域包括ケア病棟)では杖を使用する高齢患者が多い一方で病室には杖置き場がなく、患者は床頭台などに杖を立てかけていました。しかし倒れた杖を拾おうとして転倒するケースが多発。そこで転倒事故等防止のため看護補助者が杖ホルダーを製作・設置しました。その効果を調査したところ、杖を拾う患者を目標とした職員は設置前の26人から設置後は14人に減少。床頭台にかけてあった杖を落としたことがある職員は同じく27人から15人に減りました。多くの施設で同じ悩みを抱えていることが想像でき、商品化の可能性を秘めたアイデアといえます。

*写真撮影時のみマスクを外しています

オリジナル体操で「生き生き」 楽しみながら課題を克服

利用者目線
で健康増進

〈神奈川〉金沢若草園
済生記者
日高 純



筆者

当園は1965年に神奈川県
の委託を受け、全
国初の公設民営の知的障
害者授産施設として運営
を開始しました。2011
年4月には県から移譲を受け、
済生会の施設として再スタート。
法改正による新事業体系移行を
経て、現在は就労継続支援A型
・B型を中心に、生活介護、短
期入所（ショートステイ）、障
害者向けグループホーム、計画
相談支援など多岐にわたり事業
を行なっています。

現在、知的
障害や発達
障害がある
64人の利用
者がいます。
年齢は18歳
から63歳ま
です。

果発表会が文化として同院に根
差している表れです。
なぜ20年以上もこの取り組み
を続けることができるのか？
という問いに、看護部長の
岩本なお子さんは「看護
補助者の探求心と彼らの

熱意を拾い上げる職員
の「美点凝視」が身に
ついていくからだと思
う」と看護スタッフ等
の活躍を誇らしげに語
っていました。

でと幅広く、年代や
状況により必要とさ
れる支援内容はさま
ざまです。体力の衰
えや思考力の低下が
目立ち、健康面に注
意が必要と思われる
40代後半の方に対し
ては、日常生活を営む
のに必要な機能の維持
・向上のために「生き
生き体操」を実施して
います。

ゲーム感覚の 「生き生き体操」

「生き生き体操」は、
今年4月に入職した田
中一也支援部長が新た
に考案したオリジナル
体操です。
それまでは横浜市体
育協会の指導員に委託



利用者に「生き生き体操」を指導する田中支援部長。楽しそうな様子を見て、これまで輪に入ろうとしなかった利用者も加わるように



新体操で使うようなリボンを持って行なう「マツケン体操」。「オーレ！」と声を出しながらマツケンサンバのハイテンポなリズムに合わせて踊る



椅子の背をつかみながら行なう足の体操。「足先までピンと伸ばす」など細かい動作の声かけも意識



じゃんけんでの頭の体操。下肢の弱い利用者さんも座ったまま楽しめる



田中支援部長の動きをまねる、お手玉体操。頭と体を同時に使う

「機能訓練」として体操やストレッチを行なっていますが、より利用者の個々の性格や特性に合わせた内容で実施する必要がありました。また、田中支援部長が機能訓練を行なう利用者の様子を見た際、体操の輪から外れている人や笑顔が見られない人がいることに気づきました。その改善のため、自身の公立高校・特別支援学校での体育教師としての勤務経験を生かし「体を動かすことの楽しさを知ってもらおう」ことを主眼に、

体操のプログラムを構成しました。「生き生き体操」の主なプログラムは、選曲や道具に工夫を凝らし、ハイテンポなリズムで有酸素運動の効果も狙った「マツケン体操」、頭と体を同時に動かす「お手玉体操」や「じゃんけん体操」など。日常生活での基本動作の維持・向上が必要、運動不足、姿勢が悪いといった利用者それぞれが持つ課題を、「楽しい」「面白い」とゲーム感覚で楽しみながら克服していけるようなものになっています。「生き生き体操」は隔週の金曜日、毎回1時間かけて実施。現在は生活介護の利用者を中心に自ら参加を希望したり、職員から誘いを受けた利用者が多く合わせて11人ほどが参加しています。実施する中では、「前回よりうまくできるようになったね」「計算が正確になってスビードも早くなったね」など利用者に積極的な声かけをし、モチベーションを高められるようにしています。

日常的に運動している障害者の方は非常に少なく、ゴルフやテニスなどのスポーツを楽しんでいる方もほとんどいません。麻痺があっても下肢が弱い方でも、体を楽しく動かす時間を増やせるようにしていきたいと、田中支援部長は新たな運動方法を模索中です。今後は散策やミニ運動会などを企画し、楽しみながら体を動かす機会をさらに増やしていきたいと思っています。



就労継続支援A型・B型事業では、利用者50人が県内の済生会病院・施設のユニホームのクリーニング業務を行なう



生活介護を受ける利用者7人。日中の主な活動は、体操、昼食の準備・片付け、切り絵や塗り絵などの創作活動、園外公園の清掃など



取材のために豊浦病院のスタッフが看護補助者の取り組みのパネルを制作してくれました



介護成果発表会



SAISEI 企画広告



(上段) ヒューマンリソシア株式会社。(下段左から) 向島病院および中央病院の職員各2人

向島病院 RPAの事を知りませんでしたが、ヒューマンリソシアさんからRPAの案内をいただいたのがきっかけでした。ヒューマンリソシアさんが開催している研修に参加したほか、ヒューマンリソシアさんからRPAを導入されている近隣の病院様を見学させていただくなど情報収集を進めた結果、これは活用出来そうだと思います。

から開始したのですが、当院の要望に対して親身になってシナリオ作成をして頂き、今では、シナリオ作成を自院で行えるようになりました。



DX化 実践例 + 成果 対談 ・ 展望

人手不足や長時間労働 解消策に向けたRPAの効果

東京都済生会で推進するDX RPAとは？

顕在化する人手不足や労働人口減少を見据え、DXが目玉される中、その第一歩として、東京都済生会支部（済生会中央病院・済生会向島病院）では2023年よりRPAを導入しました。

RPA導入の背景

——早速ですが、まずRPA導入の背景や経緯をお聞かせいただけますでしょうか。

中央病院 企画課では、病院経営をはじめとする自院の課題を抽出し企画立案を担当しています。データの集計や資料作成に時間を取られ肝心の企画立案に時間を十分に割けない状況が続いており、もともと本来の業務に注力しなければ……と考えていた時にRPAを知ったのがきっかけでした。

向島病院 職員の慢性的な長時間労働や人手不足が課題としてありました。そんな中ヒューマンリソシアさんからRPAの話があり興味をもったのがきっかけでした。ヒューマンリソシアさんが開催したRPAの無料説明会に当院から3名が参加し、説明を聞いたところ、これであれば自院での内製化も図れると思います。お問い合わせをしました。

済生会中央病院と同様ですが、医療機関でのノウハウが多くあることで様々な角度からご提案をしてくれたヒューマンリソシアさんにお願いをしました。

WinActorを選んだ理由

——RPAツール選定で重視したポイントや多数あるRPAツールからWinActorを選定された決め手についてお聞かせください。

中央病院 実は当初、他のRPAツールをトライアルで使用していたのですが、WinActor^{※2}を使ってみたところ、完全に日本語で行うことができる点がとても良いと感じました。また、WinActorを導入している病院が多く活用実績が共有できることもメリットを感じ、2023年6月に導入を決定しました。

向島病院 導入当時は、WinActorと海外製のRPAツールが候補にあがっていましたが、ヒューマンリソシアさんが開催している無料説明会に参加し、誰もが使えるかという点を重視し直感的に操作ができるWinActorに選定、2023年5月に導入を決定しました。

——現場が使いやすいという点、さらに利用数が多く参考となる活用事例が多いことも決め手になったということですね。

導入のプロセスで

どのような課題があったのか

——RPA導入の過程で困ったこと・苦労した点などはありましたか。

中央病院 事務部門から導入し、一定の成果が得た次のステップとして、他部門への展開

入に至りました。

——人手不足や付随してくる業務に時間を取られて本来取り組むべき業務が圧迫されるという課題を抱えておられたのですか。

中央病院 働き方改革が推進される中で、長時間労働の是正や柔軟な働き方などが求められます。しかし、求められる成果を下げる訳にはいきません。この課題を解決するには、生産性の向上が必要になります。課題解決の手段の一つとして、RPAによる業務効率化を進めています。

向島病院 おっしゃる通り、医事業務に求められることが非常に増えてきていると感じています。コロナ禍では急な欠勤や自宅待機者が出てしまい職員の負担が増大しました。そのような事態に対して職員数はある程度一定ですから、何かを簡素化していくと考えた時にRPAという選択肢があがってきましたね。

ヒューマンリソシアを選んだ理由

中央病院 RPAの販売代理店は多くありますが、その中からヒューマンリソシアさんを選んだのは、利活用の支援が非常に手厚かったからです。RPAを実行するには、シナリオと呼ばれる指示書を作成する必要がありますが、導入初期はITに強くシナリオ作成出来る人材がおらずヒューマンリソシアさんにシナリオ作成をお願いしました。

ヒューマンリソシアさんは、医事業務に関する知識はもちろん、RPA活用のノウハウや実績も豊富で、他病院でのRPA活用についても教えて頂きました。まずはトライアルが課題としてありました。しかし、自身の所属する部門ではなく他部門のシナリオを作成するには、業務自体の理解から始める必要があります。そのため、各部門で興味のあるような職員に声をかけてRPAの院内認知を高めていきました。ヒューマンリソシアさんは医療機関の活用事例についても詳しく、RPAに置き換える業務の選定をサポートいただきながら進めることができました。

RPA・WinActor導入の成果

——RPAの導入成果はいかがでしたでしょうか。

中央病院 現在RPAを活用しているのは8部署（医事課、診療録管理室、医療安全推進室、健診センター、CQC、リハビリテーション部、企画課、医療連携室）で、17業務の自動化を行い、年間約1300時間の削減効果が出ています。具体的な業務例としては、医事コードの入力・打ち換えやインシデント情報へのミーティング資料への転記、カルテ記載不備内容についての医師へのメッセージ送信などです。RPAの利点として、作業を自動で

※1—RPA (Robotic Process Automation) とは、PCなどのコンピューター上で行われる作業を人の代わりに実施し、働き方改革や業務改革に貢献できるソフトウェアのこと。

※2—WinActor®とは、NTTグループが研究開発した純国産の国内シェアNo.1のRPAツールです。WinActor®はNTTアドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。

導入効果実績 〈済生会中央病院〉

年間削減 計 1313時間

導入部署	RPA化業務	これまでの作業時間(時間/年)	現在の作業時間(時間/年)	削減時間(時間/年)	備考
医事課	糖(試験紙法)入力	576	37	540	●月28時間40分超勤時間削減 ●算定・レセプトの精度向上に注力できた ●入力漏れ・誤りがなくなった
医事課	鏡検法データ修正	200	20	180	●月19時間12分超勤時間削減 ●算定・レセプトの精度向上に注力できた ●入力漏れ・誤りがなくなった
医事課	褥瘡コメント入力	24	0	24	
医事課	職員未収金メッセージ送信	6	1	5	●他業務に時間を割り当てることができた ●誤送信メールの予防に繋がった
医事課	急性期充実体制加算用データ集計	6	1	5	
診療録管理室	月初データチェック	54	0	54	●人的ミスをなくすことができた
診療録管理室	JCSADL	24	0	24	
診療録管理室	質的監査用データ作成	8	0	8	
診療録管理室	カルテ記載不備	102	13	89	
医療安全対策室	ミーティングレジュメ作成	260	156	104	●入力間違いがないことで精神的負担が軽減された ●作業時間に余裕ができたことで内容の推敲に時間をかけることができ、会議の質の向上につながった ●毎月・毎週の会議開催や他業務遂行による身体的・精神的負担が軽減された ●今後他のスタッフが配属された時にもレジュメが作成できるようシステム化することができた
医療安全対策室	管理委員会スライド作成	48	36	12	
医療安全対策室	転倒・転落件数集計	48	12	36	●これまで画面を紙に印刷していたが、それが不要になり、人為的ミスも防ぐことができるようになった ●繁忙期の作業だったが、精神的余裕が生まれた ●業務の標準化ができた
健診センター	勸奨状送付業務	180	90	90	
クリニカルクオリティセンター	褥瘡対策診療計画書チェック	203	135	68	●自動化により誰でも作業することが可能になった
リハビリテーション科	廃用症候群に係る評価表作成	48	0	48	●これまでの作業時間をリハビリの実施に回すことができた
企画課	決裁文書保存	26	0	26	

導入効果実績 〈済生会向島病院〉

年間削減 計 612時間

導入部署	RPA化業務	これまでの作業時間(時間/年)	現在の作業時間(時間/年)	削減時間(時間/年)	備考
人事経理課	勤怠管理システムへ看護部の勤務表取込	240	12	228	●各部署ごとに異なる勤務表を勤怠管理システム側が求めるCSVデータに変換する
人事経理課	勤怠管理システムへ栄養管理科の勤務表取込	60	6	54	
放射線科	胸部レントゲンのAI処理忘れ確認	300	5	295	●当院のAI処理は中央病院のように全自動ではなく技師が一件一件手作業でAI処理をかけている ●当然抜けも出てくるので毎日朝8時半と16時半に自動でAI未処理の物がプリントアウトされるように作成
放射線科	医師毎のCT・MRI未読レポート自動抽出	36	1	35	●画像診断報告書を確認しない事がないように医療安全上対策の構築が必須とされている ●全医師(常勤・非常勤)ごとの未読レポート一覧表を自動印刷 ●救急しか来ない医師や退職(休職)医師もそれぞれ自動で印刷されるように作成
情報システム推進課	旧電子カルテの患者を全件PDFにて抽出	※削減金額1200万円			●旧電子カルテサーバがいつまでもサーバ室を占拠している → カルテ記事を全てPDF化し保存することによりサーバを撤去できる(タイムスタンプあり) ●件数も7万件あり人力で一つずつやっていくのは不可能 ●業者依頼しようとする200~1300万かかるので自前で作成

も実感されている部分かと思えます。
東京都済生会支部としては、RPAを活用していき、職員の意識改革や作成したシナリ

オの情報共有、意見交換会などを通して業務量の増加にも対応できる強い病院を目指していきま

また、東京都済生会支部から済生会全体にRPAの素晴らしさを広めていき済生会グループの各病院で業務量の増加に屈しない病院経営が叶えられればと考えております。

今回、モデレーターを務めて頂きましたヒューマンリソシア(株)へのお問い合わせにつきましては左記よりお問い合わせをお願い致します。

ヒューマンリソシア株式会社

全国27拠点展開する総合人材サービス会社。専門部門である「メディカル事業部」を設置し、医療機関向けの人材派遣・業務受託、RPAツールやレセプトシステム導入など医療DX化支援まで、医事周りの運営をトータルに支援している。

RPA「WinActor」の販売では、NTTデータ社の特約店のうち、6年連続で販売実績第1位。「導入支援社数870社超、研修提供は1,600社超、医療機関向けの導入支援実績も多数。

トライアル・デモ等のご相談は、下記にお問い合わせください。

〈連絡先〉ヒューマンリソシア株式会社 メディカル事業部

東日本 Mail: tokyomd@athuman.com

西日本 Mail: oosakamd@athuman.com



6年連続 販売実績 No.1



研修実績 12,545名 1,584社

導入支援 884社(2024年6月時点)



行ってくれるため、その時間を人の手によってしか行うことができない業務に充てられるということがあがられます。またそれに伴って、算定や会議内容の質が向上したり、職員の精神的負担が軽減されたり、業務の見直し・標準化の契機になったりといった副次的な効果も実感しています。

またRPAは、事務部門に限らず診療部門・医療技術部門でも活用が可能だと考えています。そのため、既に成果をあげているリハビリテーション以外の部門の業務についてもシナリオの作成を進めるなど、活用を広げていく考えです。

向島病院 現在、3部署(人事経理課、放射線科、情報システム推進課)で5業務の自動化を行い、年間612時間の削減効果が出ています。具体的には、放射線科にて胸部レントゲンのAI処理漏れ確認業務や医師毎のCT・MRI未読レポート抽出業務などをRPAで自動化しています。CT・MRI未読レポート抽出では、CT・MRIが未読のままでは医療事故に繋がりがありません。そういったことを未然に防ぐ医療安全対策面でも有効

す。今年度は電子カルテのリリースがあり、旧電子カルテ患者情報のPDF化及びファイル保存業務もRPAを活用して行いました。ベンダーにお願いすると1200~1300万円もコストがかかりますが、RPAで自動化することでコスト削減も図れています。

RPAと医療DXの今後の展望

最後に、今後のRPA活用の展望をお聞かせください。

中央病院 導入当初のライセンス数は3本でしたが、今は6本まで増やしています。これによって、現在RPAを活用している部署以外にも展開していくことができるようになります。まず、診療部門・医療技術部門や、事務部門では人事課・経理課などへも導入を図っていきたく考えています。現在、全職員に向けてRPA化したい業務を募集しており、多くの相談をいただいています。全てRPA化できるものばかりでは無いですが、職員が自身の業務を見直し、効率化を考えるきっかけになっています。RPAを通じて、職員の意識改革にも繋がればと期待しています。また、RPAは既存シナリオの維持やメンテナンスも重要なため、シナリオの作成やメンテナンスができる人材の育成・教育体制の確立なども今後力を入れて取り組んでいきたい

考えています。

今後このように病院間で情報交換をしなが、積極的にRPAの活用を推進し、職員の負担軽減、そして患者様へのサービス向上に繋げていきたいと考えています。

向島病院 RPA導入時のライセンス数は2本で、現在は4本導入しています。2本追加をしたのは旧電子カルテの患者情報をPDF化してフォルダに保存する業務を行うためでした。通常業務がある中こうした業務を人の手で行うと、完了が後倒しになるケースもありましたが、RPAを活用することで、突発的な業務もスケジュール通りに進めることが可能になります。

今後は、看護部や医事課での活用も検討しています。看護部の現在のシステムでは患者情報データの連携が弱いため、そこをRPAを活用し、橋渡しの活用が出来ないかを検討しています。また、医事課についても、済生会中央病院が医事課でRPAを活用されているので、情報交換をしながら進めていきたいと考えています。RPAのシナリオ作成は自院で行っていますが、シナリオ作成出来る職員を増やすことで、RPAを院内全体で活用し、院内全体の業務効率化を図りたいと考えています。

今後、医療技術が発展し、事務業務も増加していくことが予想されますが、その医療事務を担う人材の確保が年々難しくなっていることや医療事務だけではなく病院全体として人材の確保が難しくなっていることは皆



1 小樽の街の魅力を探すツアー



2 「坂のまち」の小樽。住宅街でも高低差がある



司会の病院マーケティングサミット JAPAN 代表理事の竹田陽介氏

3 ワカモノが未来のアイデアを発表する「未来共創ドラフト会議」



5 介護・福祉ゾーンでは無理なくできる介護予防体操が実施された



4 地元の魅力ある商品を発掘する「高校生百貨店」

な命。北海道でも食を通じた駆除への理解を求めました。

7000人が来場

8日は済生会ビレッジを中心にさまざまな企画が行なわれ、老若男女問わず多くの人々が参加しました。みらい共生マルシェでは老舗料亭が販売する冷凍やわらか和食（嚙下食）や済生会就労支援事業所「ぶりもばっそ」の野菜販売を実施。モルックやポッチャのスポーツ体験、済生会重症心身障がい児（者）施設みどりの里の利用者による「劇団みどりの」の演劇ステージも披露されました。

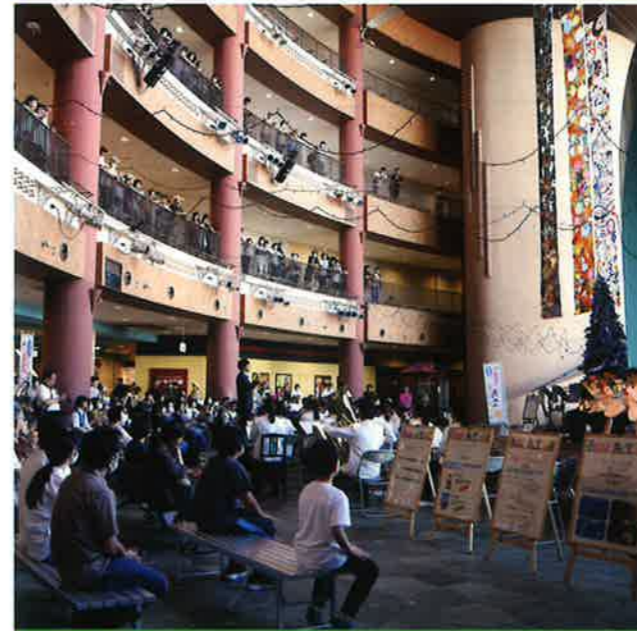
メインステージでは共創カンファレンスを実施され、前日のドラフト会議で1位指名の北野さんが多くの観客の前でプレゼン（写真⑥）。他にもバラ・デファスリートによるトークショーも開かれました。

イベント後、北海道済生会ソーシャルインクルージョン推進室長の清水雅成さんは「参加者数は約7000人、昨年の3倍以上の住民が来場した。済生会ができることを追求します」とすでに次の企画へ向けての構想が始まっています。

★★ 小樽くらしたい共生フェス2024 ★★

年齢や性別、障害の有無などを問わずに誰もが暮らしやすい“まちづくり”を考える「小樽くらしたい共生フェス2024」が9月2～8日、北海道小樽市の大型商業施設・ウイングベイ小樽で開かれ、

約7000人の市民が参加しました。小樽の未来につながるアイデアを取材しました。
（東京・中央病院 地域連携室課長兼広報室室長 佐藤弘恵）



文化芸術をテーマにしたステージでは地元の中学・高校の吹奏楽部が演奏を披露した



みどりの里の利用者がウエルカムドリンクで参加者をお出迎え



スポーツスクエアでは誰でも楽しめるモルックやポッチャの体験とミニゲームが行なわれた



小樽駅前の街並み。空はすっかり秋模様

「ウエルネスウィーク」と題した9月2～8日はウイングベイ小樽内の済生会ビレッジで北海道済生会の医療や福祉活動を通じてまちづくりを紹介。7日には前夜祭、8日はメインイベントの「共生フェス」が開かれました。

7日は午前10時から道外参加者を対象に「すこやか視察ツアー」（写真①②）を実施。北海道済生会の櫛引久丸常務理事がバスガイドを務め小樽市内を案内坂が多く冬は豪雪に見舞われる小樽の課題を知ることができました。

午後は病院マーケティングサミットJAPANとのコラボレーション企画「未来共創ドラフト会議」（写真③）。高校生から社会人までのワカモノが小樽の未来をプレゼン。筆者も含めた36人の聴講者が監督となりました。7人が発表し1位に選ばれたのは島根県立隠岐高校3年・北野藍さんの「外来種カフェ」「食べる」を通じて、多様な生き物の共生を考える。島内のウシガエルをおいしく食べるフレンチレシビを福島県の高橋生などと一緒に関発した取り組みを発表。外来種と言えども大切

連携士養成、法人外へ広がる 北海道・小樽で 支部単位初の研修



北海道済生会

本年度、法人内での「済生会地域包括ケア連携士」養成人数が目標の500人を達成する見込みとなり、新たに支部単位での養成研修実施が決定。まちづくりに関わる外部機関などからの参加も可能となりました。

初の実施は当支部で行なわれ、支部職員や小樽市社会福祉協議会の職員など計27人が受講しました。当支部は小樽市と連携して重層的支援体制整備事業を推進しており、本研修も「小樽市認定資格」とのお墨付きを得て、準備から受講者の人選まで市と共同で行なってきました。

7月から各受講者のオンラインングでの事前学習が始まり、8月16日はWEB研修、8月29・30日の2日間は対面研修を実施。WEB研修では小樽商科大学・片桐由喜副学



長が「地域包括ケアシステムと地域共生社会」と題し、小樽における連携士のあり方について講義を行いました。対面研修では炭谷茂理事長が「連携士による地域包括ケアの展開」をテーマに、日本でのソーシャルインクルージョン進展の歴史や、連携士の役割について解説。その後、五つのグループに分かれて地域課題の抽出、解決方法について検討ワーキングを実施しました。

参加者は地域で活躍中の方々といいこともあり、想像をはるかに上回るたくさんの意見が出されました。地域での本研修は、済生会のノウハウとそこの地域を知り尽くした専門職による意見がうまく融合し、連携士の新しいあり方を創り出せると確信しました。

最後の小樽市福祉総合相談室・大口明男主任の挨拶では「小樽市における重層的支援体制整備事業の一翼を担



ってほしい」「来年も実施したい」との心強い言葉がありました。
(ソーシャルインクルージョン推進室長 清水雅成)

ソーシャルインクルージョン

済生会はソーシャルインクルージョン推進計画を実施しています。無料低額診療もなでしこプランも、この中に含まれます。だれも排除されないまちづくりを目指し、全支部・施設が1600の事業を展開します。



7 みどりの里のリハビリプログラム「モザイクアート」で子どもたちも楽しんだ



6 パートナー犬とのふれあい。ペット飼育による介護予防の効果を体験した



8 島根県立隠岐高校の北野藍さんが同校で取り組む外来種カフェをプレゼン。生態系を崩すウシガエルの食を通じた環境保全活動を発表した



9 飲食・物販などが行なわれたマルシェでは洋菓子を出店した調理学校の生徒もイベントを楽しんだ



10 発達支援事業所のピザ釜を使って北海道済生会スタッフが運営協力者の昼食のためピザを焼いた



12 筆者も参加したモルック体験。五十嵐浩司・小樽病院事務部長と本部広報課の河内淳史さんと対戦した



11 沖縄美ら水族館の等身大ジンベイザメタペストリー。小樽水族館と沖縄美ら水族館によるZoom中継ではエサやりの実況配信も

矯正施設退所者等への支援には、行政機関との連携が不可欠

大分県地域生活定着支援センター

8月26日、県が主催する「令和6年度再犯防止推進関係市町村職員研修会」が開催され、当センターから御手洗和也センター長、圓道太一相談員と筆者の3人が講師として参加。矯正施設退所者等に対する支援の状況や、支援対象者と地域社会とのつながりの大切さについて講演しました。

また、同月20日には、県職員2人に矯正施設退所者の暮らしを実際に見て、生の声を聴いて



7月26日と8月23日の2日間、泉南市立樟井防災コミュニティセンター内に「やまのい食堂」(こども食堂)をプレオープンしました。

〈大阪〉 泉南特養なでしこりんくう 2日間で1000人参加

夏休み期間中のため、昼食の時間帯と夕食の時間帯の2部制で実施。子どもたちと保護者を合わせ、2日間で1000人が参加しました。

1日目はカレー、2日目は焼きそば、おにぎり、フランクフルト、ポテトなどを提供。「お

もらうため、刑務所を出所して
同居生活をする高齢者の自宅を
一緒に訪問しました。



「おいしい」「おかわりしたい」な
どの声が多数聞かれ、2回お



加害者支援の意義や重要性を考える

全国済生会刑余者等支援推進協議会

7月8日、第16回全国済生会刑余者等支援推進協議会を済生会本部で開催しました。ハイブリッド開催とし、現地19人、オンラインで11人が参加しました。



〈大阪〉 吹田特養松風園 生活困窮者の「光」に 施設連記念誌に当園CSW

当園が加盟する吹田市社会福祉協議会施設連絡会(施設連)



が、「職親プロジェクト」の活動をけん引するに至る経緯や葛藤について講演しました。活発な質疑応答が行なわれ、大変有意義な時間となりました。



その後、昨年度の活動実績と収支報告、今年度の活動計画等を協議し、今後の刑余者支援活動に向け構成員一同あらためて意思を統一し閉会の運びとなりました。



同ネットワークは、生活困難に陥っている人への事例を共有しながら支援者同士の輪を広げていく取り組みで、専門職が施設の垣根を越えて相談支援活動を展開しています。



機関誌「濟生」が 創刊100年!

1924(大正13)年6月創刊の「濟生」が発行100年を迎えました。「濟生」のあゆみを紹介します。かつて東京や横浜、神戸などの港湾都市の河辺などに、手狭な小型船の中に暮らす「水上生活者」がいました。

「船の集落」に暮らす彼らに濟生会が1930年代、東京や横浜で巡回診療を行っていた記録が見つかっています。濟生丸やなでしこプランにも通ずるものが感じられる戦前の水上巡回診療をお伝えします。
(株)白橋 西林美美・本部広報課 河内淳史

水上生活者への巡回診療【前編】

水上生活者とは何か

「水上生活者」という言葉が生まれたのは明治時代。主に海運を担う港湾労働者とその家族たちです。

コンテナ輸送が生まれる前の海運は全て人力で荷運びを行なっており、接岸できない大型船と陸地の間を小型船で行き来している人々がいました。深夜の貨物盗難を防ぐため、見張りを兼ねて家族と船内に居住する者なども現れ、海運業の発達と共に港湾都市の水上生活者が増加していきます。



昭和初期～中期(1920～1960年代)に水上生活者が多かった地域。東京、横浜、名古屋、大阪、神戸、関門の六大港と瀬戸内海

人々が水上生活を送る理由には貧困や住宅難も影響していました。

日本では大正時代に電気、ガス、水道などの各種インフラ整備が本格化しますが、水上生活者たちはその全てが利用できず、不衛生な生活を余儀なくされてきました。寝泊りも食事も全て船の中。水上での暮らしには常に危険が伴い、子どもの溺死者も珍しくなかったようです。

水上生活者巡回診療船
水上ニ生活スル關係上常ニ取り殘サレテノ水上生活者約六萬人ニ向ツテ東京水上警察署ニ於テ巡回診療船二班ヲ編成スルコトニヨリ本會巡回診療船二名(漢草診療所 狭江診療所 巡回診療船)参加シ京橋月島方面ヨリ巡回ヲ開始シ其レヨリ各幹線水路ニ亘リ活動ヲ行ヒタリ

生活の拠点でもある船は荷主の都合で日々移動するため、水上生活者の児童は通常の学校に通うのが困難です。子どもたちのために全寮制の小学校が設置されたところもありました。
芥川賞作家、宮本輝のデビュー指し、「健康週間」という健康増進運動が開催されていました。東京では警視庁や東京府・市が主催となり、協力団体として医師会、町会や学校、工場、宗教団体、在郷軍人会などさまざまな人々が参加。講演会、ラジオ放送、ポスター掲示や清掃活動などを実施していました。

戦前の水上巡回診療

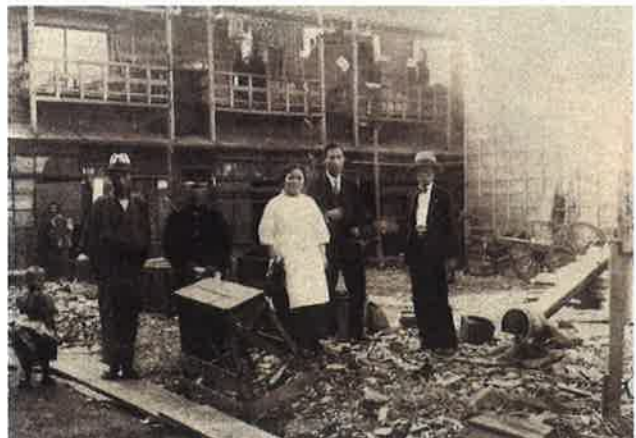
1作「泥の河」(映画版は1981年公開)などを見ると、水上生活者の暮らしを知る助けになります。

1930年代、日本では感染症予防や国民の体力の向上を目指す。

水上生活者について、1931年11月号の「濟生」では東京湾内に6万人いると記載されている。

1936年10月の水上巡回診療記録

「濟生」1937年1月号より
10月26日。朝から雨だったものの水上署と協力し、例年のように午前9時から夕方まで2班に分かれ芝浦、月島、越中島、京橋、日本橋方面で実施。各繫留船に近づき患者の有無を尋ね、患者がいた際は簡単なものであれば船中で手当てを施し、必要に応じて治療券を発行、または投薬を行なった。
本年度の取扱件数は26人、昨年の61人と比較すると激減した



健康週間にあわせて東京・富川町(現在の江東区森下)で巡回診療をする濟生会深川診療所の職員と警察官たち。(「濟生」1931年11月号より)

健康週間にあわせて東京・富川町(現在の江東区森下)で巡回診療をする濟生会深川診療所の職員と警察官たち。(「濟生」1931年11月号より)



健康週間の一環として水上健診が行なわれていた。写真①は警察と連携した水上生活者への健診活動。写真②③は月島地区での様子(1931年11月号より)

健康週間

自十月二十二日
至同二十八日
本會施設設計要項
一、健康週間施設(十六ヶ所)所不備内時より正午迄
二、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
三、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
四、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
五、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
六、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
七、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
八、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
九、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十一、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十二、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十三、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十四、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十五、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十六、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十七、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十八、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
十九、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備
二十、巡回診療船(二隻)二日、二日目の所不備

が、当日の悪天候並びに「朝日新聞水上巡回診療船」の常設など水上生活者に対する救済の普及を物語るものと思われる。

後編では水上健診の様子と

■寺脇隆夫監修「戦前日本の社会事業・社会福祉資料第11期、第1巻」(柏書房 2022年)

その後、時代の変化とともに消えゆく水上生活者や水上健診についてお伝えします。

参考文献

- 石井昭示「水上学校の昭和史——船で暮らす子供たち」(隅田川文庫 2004年)
- 南博ほか編「近代庶民生活誌 第12巻」(三一書房 1996年)

中村

AOI Nakamura

蒼

この秋公開の映画では、どこか頼りなくてタイミングの悪い不器用な男性を演じている中村蒼さん。役柄とご自身に果たして共通点はあるのでしょうか。また、悲しみを抱えて動けない人がそばにいたらどうすればいいのか、「もし自分だったら？」を考えていただきました。



Vol. 173

ほんの小さなやさしさが見知らぬ誰かを救う

「二観客として映画に入り込み、泣きました」

「普段は自分の演技を客観視できないのですが、この作品は一観客として入り込み、自然と涙が出ました」

「僕は自分と奮闘する主人公の恋人を演じている。『僕自身、がんばっているけど』『そこじゃない』みたいなところは似ていると思います。それをまわりに指摘され、じゃあ逆のほうと違ってやってみると、今回はそっちじゃなかったとか。結局、相手にどう思われるか考えすぎているんです。自分の純

粋な気持ちから行動し、発言するのが本当は一番いいんだよと、自分の子どもたちには伝えていきます(笑)」

中村さん。

本作で人間味あふれる人物を演じ手応えを感じたと言いますが、先々の目標は持っていない。「明日も仕事があって、朝起きたら家族がいて、それだけで僕は十分幸せです」

Text：みやじまなおみ
Photos：安友康博
Hair & Make-up：高草木剛 (VANITES)
Styling：荒木大輔



なかむら・あおい 1991年生まれ、福岡県出身。2006年に主演舞台「田園に死す」で俳優デビュー。『ひやくはち』(08)で映画初主演を務める。近年の主な出演作に連続テレビ小説「エール」(20)、「らんまん」(23)、「沈黙の艦隊 シーズン1〜東京湾大海戦〜」(24)、「ギークス〜警察署の変人たち〜」(24)などがある。現在放送中のNHKドラマ10「宙わたる教室」に出演中のほか、25年1月から放送のNHK大河ドラマ「べらぼう〜篤重栄華乃夢斬〜」に出演が決定している。自身初の海外出演作となるApple TV+で配信中の『Pachinko パチンコ シーズン2』にも出演中。



映画『アイミタガイ』 主人公・梓のもとにある日突然届いたのは、親友・叶海が事故で亡くなったという知らせだった。交際相手の澄人との結婚に踏み出せず、生前の叶海と交わっていたトーク画面にメッセージを送り続ける梓。同じ頃、叶海の両親もまた娘の死を受け入れられず前に進めないでいた。そんなとき遺品のスマホに溜まっていたメッセージを見つけ……見逃してしまいそうな微かなやさしさがつながり、登場人物たちに思いもよらない奇跡を起こす。

■原作：中條てい「アイミタガイ」(幻冬舎文庫)
■監督：草野翔吾 ■脚本：市井昌秀、佐々部清、草野翔吾
■出演：黒木華、中村蒼、藤間爽子、安藤玉恵、松本利夫 (EXILE)、升毅、西田尚美、田口トモロヲ、風吹ジュン、草笛光子

11月1日(金) TOHOシネマズ日比谷ほか全国ロードショー

©2024「アイミタガイ」製作委員会 配給：ショウゲート



口福につぼん

吉井省一

いくつになっても「おやつ」という言葉にワクワクしてしまふのはなぜでしょう。カーリングの試合の合間に選手がうれしそうに食べていたのも、おやつ。藤井聡太七冠が対局中につまんでいたのも、おやつ。世の中には、おやつ協会という夢のような名前の社団法人さえあります。

熊本名物の「いきなり団子」は、そんな「おやつ心」をかきたくてにはおかない一品。サツマイモとあんこのコンビなんて、甘党にはたまりませんからね。そろそろ食欲に火がつく秋の収穫シーズン。皆さんのおやつタイムを美味しく彩るお菓子のひとつとして、候補に入れていただければ幸いです。

出来上がってすぐ急速冷凍しているの、お家で電子レンジや蒸し器で温めるだけで、本場の味を楽しむことができます。冷めてもモチモチした食感を楽しめるのも、特長のひとつ。さっそくいただきますよ。

まずは王道たる「プレーン」から。素材がシンプルなのに、味の違いがよく表れる一品と言えます。私も幾つか他店のものを食べていますが、こちらはイモの旨みが強く感じられるのが特長。あんの甘さも相まって、どんだん手が伸びてしまいます。次に、鮮やかな色合いの「紫

素朴で奥深い5種類の味わい

日本茶はもちろん、紅茶やコーヒーも相性ぴったり



とか、急なお客様にも出せるとか、そんな意味で名付けられたようです。地元では、たくさんのお菓子屋さんがそれぞれ自慢の「いきなり団子」を製造していますが、今回私が選んだのは「芋屋長兵衛」。こちらはもともとサツマイモを栽培していた生産者、

大事に育てたサツマイモで作った美味しいお菓子を直接お客様に届けたいという強い想いから、お菓子づくりを始めたそうです。今回ご紹介する「いきなり団子セット」は5種類。一番人気の「プレーン」と、試行錯誤の末に創案した20種以上から選び抜いた「紫芋」「よもぎ」「黒糖」「なぐら」の詰合せです。

いずれも生産者たちが手塩にかけて育て上げたサツマイモを一般のものより厚めの約2cmの輪切りにしたものと北海道産の小豆と砂糖で炊き上げたあんや白あんなが入っています。

「なぐら」の詰合せです。いづれも生産者たちが手塩にかけて育て上げたサツマイモを一般のものより厚めの約2cmの輪切りにしたものと北海道産の小豆と砂糖で炊き上げたあんや白あんなが入っています。



済生会の「病院・施設」がある県内の市町村

85 熊本いきなり団子 《芋屋長兵衛》 熊本県 益城町



サツマイモへのこだわりは半端ではない。自社の畑で丹念に育て上げたものが美味しい菓子になる



しっとり系とねっとり系を持ち合わせた品種、紅はるかをはじめ、土付きの生のサツマイモも販売。日持ちするので「追熟」が楽しめる

んとの相性もバッチリ。

続いて「黒糖」。生地に黒蜜糖が入っているので甘みが濃厚で、モチモチ感も際立ちます。

ピンク色に染まった「さくら」は、白あんの中に桜の葉を刻んだものが入っていて、適度な塩気がちょっと上品な味わい。そんな「いきなり団子」には、

一通り味わってから、バナナアイスやきな粉、すりごまをトッピングしてみたら、これがまたツナイス味変。好みの組み合わせを楽しもうちに、あっと言う間に完食してしまいました。

「火の国」と呼ばれる熊本は、阿蘇のカルデラや熊本城など著名な観光スポットや温泉だけでなく、スイーツでも食欲に火をつけてくれる国なのでした。

熊本いきなり団子5種
[80g×5個(プレーン、紫芋、よもぎ、黒糖、さくら 各1個)]
810円(税込・送料別) 消費期限……冷凍90日間
お取り寄せ・お問い合わせは
芋屋長兵衛商店
〒861-2204 熊本県上益城郡益城町大字小谷1316-1
TEL:096-273-7979
ホームページ: <https://imoya-chobei.com>



芋」へ。生地とあんにはアヤマラサキイモが練り込まれている、まさにイモ尽くし。紫芋のやさ



小麦粉を練って仕上げた生地の中には、自慢のサツマイモと個性的なあんがたっぷり。どれからいこうか迷うこと必至



しい甘みにほっとします。

「よもぎ」はほんのり香り立ち、草餅などでも知られるようにあ



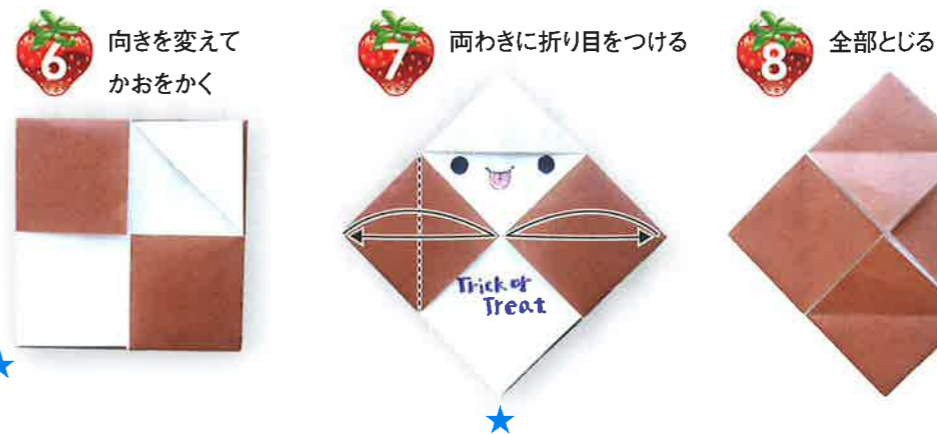
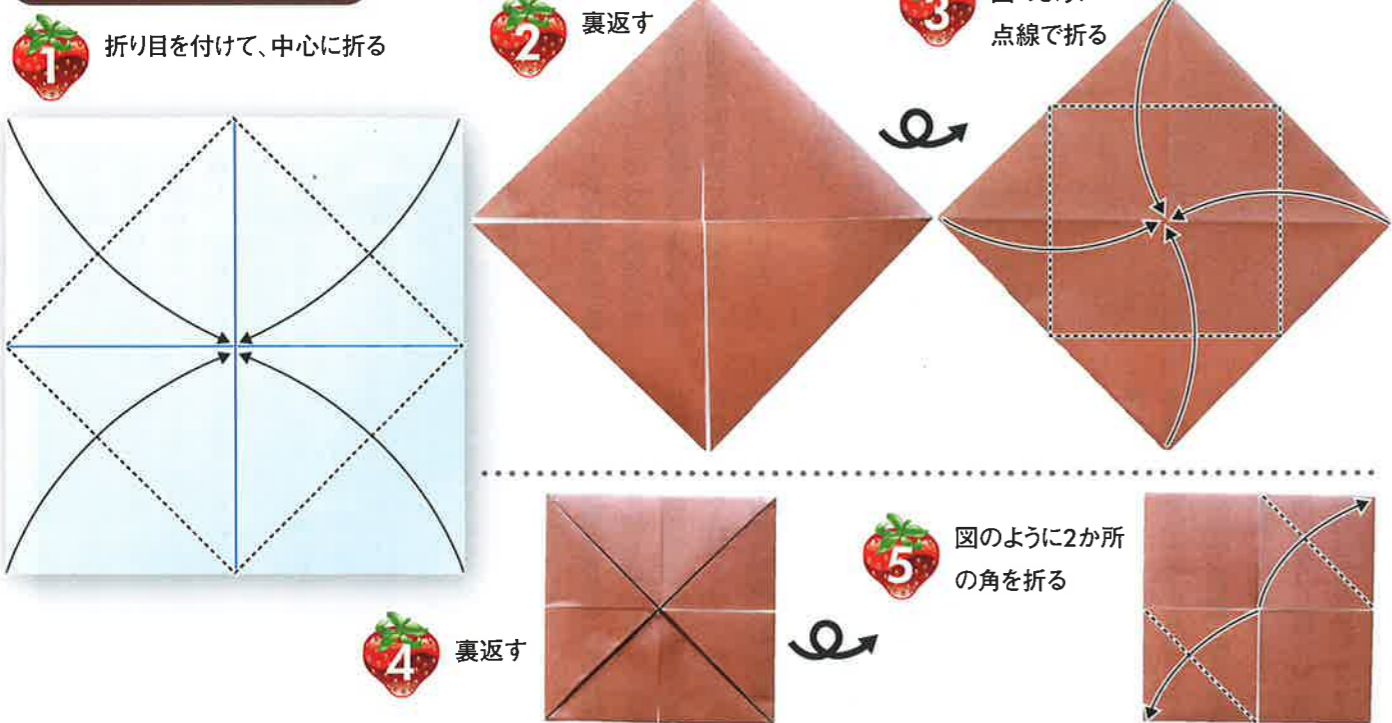
クッキーおばけ ゲーム



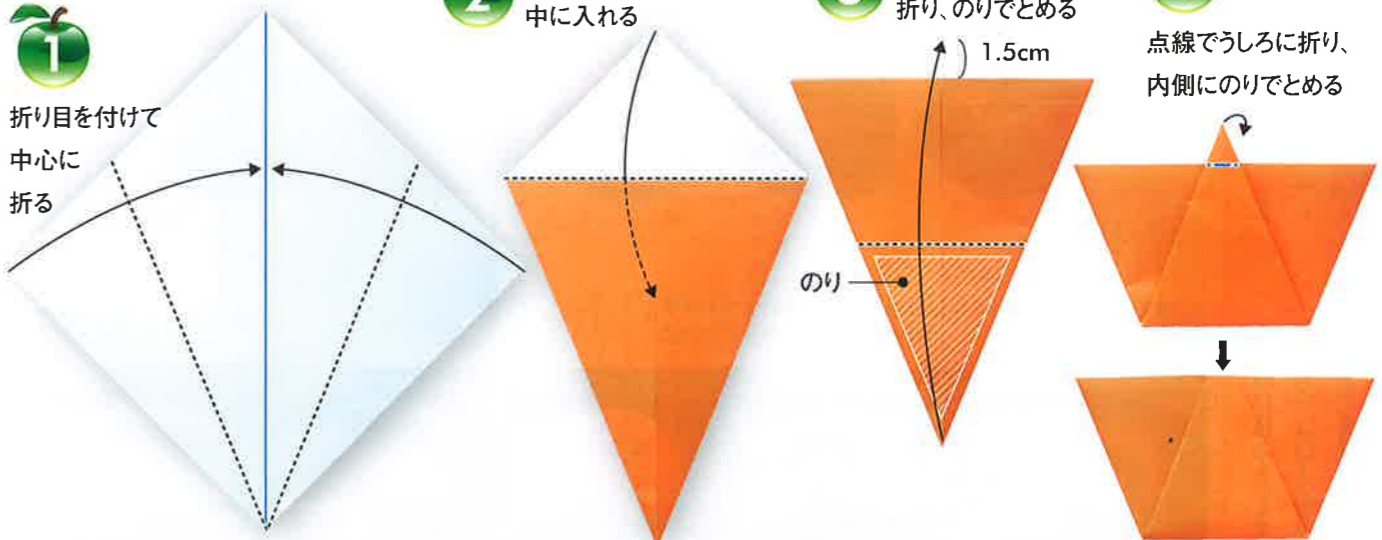
遊び方
まん中をおさえて
回してから「おばけは
ど〜こだ!」とあてっこする。
あたりが出たらアメ(おかし)が
もらえるよ! 盛りあがる
から楽しく遊んでね。

--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

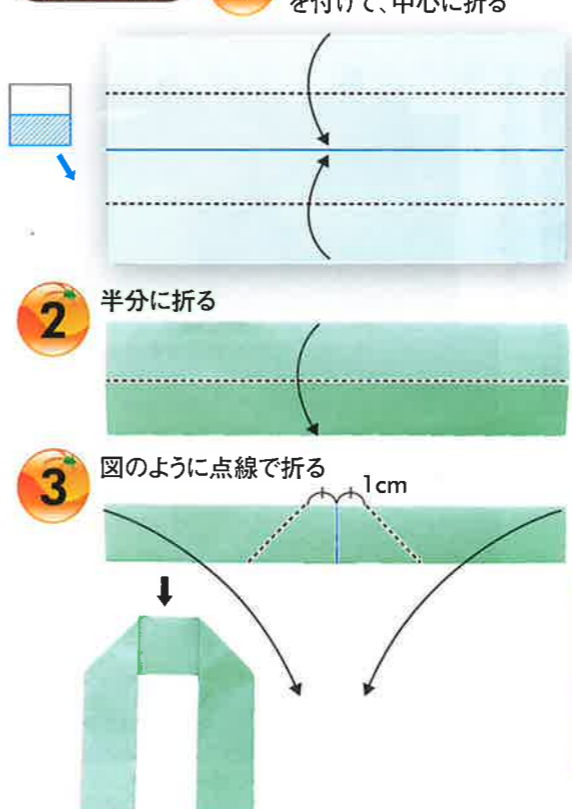
クッキーおばけ



ハロウィンバッグ



持ち手



組み方



【いまいみさ】 手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日たのしい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ髪飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。

動画も check! 作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トーヨー



101歳の井上美與子さん(左・本誌2023年7月号掲載)と100歳の原田立恵さん(右・同誌2023年11月号掲載)に囲まれる稲原さん。3人で100歳ポーズ!! この写真の記事は87ページをご覧ください

topics

県内初「遠隔病理診断」を導入

〈山口〉豊浦病院

当院は今年3月から山口大学医学部附属病院病理診断科と連携し、遠隔病理診断を行なえるようになりまし

た。遠隔病理診断とは病理スライド標本をデジタル画像化し、ネットワークを通じて表示することで、遠隔地の大学病院病理診断科と連携し術中迅速診断が可能になるとい



山口県内では初めてで、1例目を3月に行ない、8月に3症例目を無事に終えたタイミングで記者説明会を実施しました。当院で遠隔術中迅速病理診断が可能となれば、がん診療体制が充実し守備範囲も広がり患者さんや後方病院への負担軽減につながります。これがモデルケースとなり、今後の県内各地域のがん診療の効率化、県全体のがん診療の質の向上にも寄与できると考えています。

(経営企画室長 日高滋規)
★病理スライド標本がデジタル化できるとはすごい! 医療のDX化ですね。
(本部広報課 杉山菜央)

京都芸術大学とのコラボ ホスピタルアートを公開

滋賀県病院

京都芸術大学の学生たちによるホスピタルアートのお披露目式を、8月25日、当院の事業所内保育施設「なでしこキッズ」で行ないました。

病气やけがの治療に励む子どもたち・家族・医療スタッフのための空間づくりに取り組む京都芸術大学の「HAPPYプロジェクト」



エクト」に依頼し、今年5月から制作していたもの。

完成した作品には、子どもたちの想像力を刺激する物語が描かれています。この物語を絵本にしたものも併せて制作され、子どもたちが絵本の世界を実際に保育所で体験できるように工夫されています。

お披露目式では、当院の管理者が最後の筆入れを行ない、作品が完成する瞬間を、学生さんとともに分かち合いました。

今後このプロジェクトは、当院本館小児病棟の一室、そして令和8年5月竣工予定の新外来棟へとつながっていきます。
(済生記者 有馬真由美)

北海道済生会 次の100年も地域に根 差したソーシャルインク ルージョンを

北海道済生会の創立100周年記念式典を、8月22日、小



樽市で開催しました。式典には全国の済生会関係者など約200人が参加。次の100年も地域に根差し、ソーシャルインクルージョンの実現に向けて邁進することを誓いました。

当日は、北海道済生会の塚本泰司会長の式辞に続き、炭谷茂済生会理事長、三角隆彦全国済生会病院長会長の挨拶があり、来賓からはウエルネスタウン構築への期待を込めた祝辞が寄せられました。

榎引久丸支部常務理事が「100年の歩みとこれからの100年」をテーマにスライド発表を行なった後、近藤真章

くす玉にねぎらいの 気持ちを込めて

〈埼玉〉川口総合病院

支部長が「ソーシャルインクルージョンの新たな立場で将来をつないでいく」「地域住民とのつながりを大事にし、次の100年を目指す」と力強く決意を示し、式典を締めくくりました。
(小樽病院 済生記者 定 淳志)

リニアック(放射線治療)室では、治療が終了した患者さんへねぎらいの気持ちを込めて、くす玉を用意しています。

きっかけは、中村香織放射線科部長が学会報誌で東邦大学医療センター大森病院での先行事例を目にしたこと。「良い取り組み!」と思つた中村医師はすぐに科の承諾を



得て、その日の帰り道にくす玉を購入しました。中村医師は「がんになると時間もお金もかかり、周りに迷惑をかけていると悩み落ち込む患者さんが多くいます。一番頑張っているのは患者さんで、私たちが寄り添い続けていることを伝えたい」と思いを語ります。

(済生記者 原 衣里奈)

小学生40人が縫合やカテーテルを体験

熊本病院

7月27日、当院近くの熊本市流通情報会館で開催された「みらいワクワク！ こども仕事体験フェスタ@くまもと」(企画：損害保険ジャパン株式会社)に出席しました。対象は県内の小



学生。完全事前予約制で250人が参加し、14種類の異なる職業体験が提供されました。当院のブースには40人が参加。形成外科医師による応急処置のクイズと縫合体験、循環器内科医師の指導のもと模擬心臓を使ったカテーテル治療体験、看護師による血圧測定・聴診器体験、臨床工学技士による腹腔鏡手術体験など、術衣や白衣を着用し本物の医療機器を使って真剣な眼差しで体験しました。「お仕事」を終えた子どもたちは、特別に用意された模擬通貨を手渡されると、うれしそうに受け取り、その後「買い物体験」コーナーでお菓子を購入していました。

(済生記者 金子美雪)



夏祭りごっこで成長を実感

長崎病院

長崎病院託児所では、7月18日、幼児9人が夏祭りごっこを楽しみました。

まずはコインを握りしめ、「これくっださーい！」と、保育士が扮したお面屋さんとお菓子屋さんで上手にお買い物。次はスイカ割りです。1・2歳児が頑張っていたいもなかなか割れず、4歳児のお兄さんにバトンタッチ。皆の声援を受けながら何度か割れると大盛り上がりでした。盆踊りを踊った後はメインのおみこしです。皆で「わっしょい！ わっしょい！」と病院管



理棟まで練り歩きました。泣く子は一人もおらず、凛々しい顔つきで小さいながらも頑張っている姿はとてもかっこよかったです。この夏でまた一つ成長した子どもたちでした。(託児所 主任保育士 森橋夏波)



〈山口〉下関総合病院 復活したピアパーティー 344人が大集合

7月12日、互助会主催のピアパーティーが5年ぶりに復活しました。

会場は結婚式場のマリアージュ下関。院内広報委員会がポスターで告知してくれたこともあ

学・体験。

手術室では、電気メスの操作や手術支援ロボット hinetori による縫合体験に挑戦。そのほか、超音波検査や顕微鏡を使った病理診断なども行いました。最後は、各職種担当者との意見交換と質疑応答の時間。医師、看護師、薬剤師など9職種のブースを自由に回ってもらいました。各ブースでは、仕事内容やその職種を選んだ理由など、さまざまな質問が飛んでいました。終了後も個別に質問をする生徒もいて、意欲的な姿が印象的でした。(総合医療支援室 阿部祥一郎)



り、参加者は予想をはるかに超える344人を記録しました。せっかくなので盛り上がるのか、というのが実行委員一同の懸念でした。そこで事前に院内の友人たちにお願



高校生が未来をイメージ 医療の現場を見学・体験

〈愛媛〉今治病院

病院見学会を8月3日に開催し、今治西高校の生徒50人が参加しました。

西崎統副院長の開会挨拶の後は8グループに分かれ、八つの部署(手術室、超音波検査、内視鏡検査、検査部、薬剤部、放射線部、リハビリテーション部、栄養部)を見



〈北海道〉小樽病院
医師の業務負担軽減へ
麻酔アシスタント院内認定

臨床工学技士の今野義大主任が7月31日、麻酔アシスタント臨床工学技士として院内認定されました。
認定後は医師の指示のもと種々の麻酔業務を行なうことが



できるため、麻酔科医の負担軽減を目的に大学病院などで同資格の院内認定が広がっています。当院では、先進的に取り組んでいる熊本病院の制度を参考にし、札幌医科大学麻酔科学講座の協力も得てカリキュラムを作成。麻酔科医による講義や150症例の実技指導を実施しました。最後には試験も行ない、今野主任は優秀な成績で合格しました。

授与式には札幌医科大学の山藤道明教授も臨席。「麻酔アシスタントの先駆けとしてしっかりと業務に励み、この活動を広げていってほしい」との激励の言葉をいただきました。

〈広報室 松尾寛志〉

〈岩手〉岩泉病院

町民福祉まつりで健康促進

7月27日、岩泉町のうれいら通り商店街で開催された「町民福祉まつり」に、協力団体として参加しました。

当日は4人の職員（看護師1人、医療社会事業士1人、医事課2人）を派遣してブースを設置。無料低額診療事業の周知や健康相談を行なうとともに、熱



中症予防の啓発、低額で気軽に受けられる「ちょこつと健診」の案内をしました。

大雨警報が発令されたこともあり来場者は少なめでしたが、それでも83人に無料低額診療事業のパンフレットを手渡し、熱中症対策の一言メッセージ入りティッシュや塩飴を配ることができました。

「健康のことが心配なので、やっぱり病院に行つて診てもらおうことが大事ですね」という来場者の声を聞いたことは、今回の収穫の一つとなりました。

〈済生記者 中嶋亮三〉



地産の梨をいただきます

〈埼玉〉特養彩光苑

転車でトンネルを走ってよいのか「財布を落としたら帰りの電車を警察が貸してくれるのか」など、素朴な質問が飛び出しました。

今回の研修会は、日頃交流のない外国人職員同士の交流にも一役買ったようでした。

〈済生記者 佐藤 聡〉

8月27日、特養（たんぼほフロア）の入居者さん42人に、地元果樹園で当日の朝収穫したばかりの梨をおやつとして提供しました。

当施設のある春日部市内牧地区は野菜や果物の栽培が盛んで、施設周辺には農園や果樹園が広がっています。生活する地域に親しみを持ってもらいたいと考え、栄養科が今回の企画を考えました。

梨は入居者さんの嚥下機能に合わせて刻んだものやペースト状にしたものを提供しています。見た目にも楽しんでもらおうと



うとベテラン調理師さんによってきれいにカットされたものも用意しました。

「おいしかった」「梨ってこんなに甘いのか」と喜んでいただき「昔、家に梨の木があった……」と、梨にまつわる思い出を話してくれる人もいました。

〈管理栄養士 大橋裕美〉

山口総合病院

時には現場を離れて
心身ともにリフレッシュ

7月と8月に、新人看護師・新人看護補助者20人を対象にリフレッシュ研修を行いました。当院では、新人教育研修計画に必ずリフレッシュ研修を取り



〈広島〉老健はまな荘
外国人職員向け防犯研修会

外国人職員を対象とした防犯研修会が、8月1日に広島病院の研修室で開催され、当施設と特養たかね荘で働く5人の外国人職員（ベトナム、ミャンマー、フィリピン、新疆ウイグル自治



区出身）が参加しました。

講師は広島県海田警察署の職員。自転車の安全な利用方法に始まり、事件・事故やトラブル時の110番対応、困りごとを相談したいときの警察や交番への連絡の仕方など、外国人にもよく分かるように説明してくれました。参加者からも「自

入れ、部署や経験の垣根を越えて交流する場を設けています。この研修では新人教育委員が中心となり、チームで一つのことを成し遂げるゲームや意見交換会を行ないます。現場を離れて参加した新人たちは、ストレスが解消したのか終始笑顔で、心身ともに文字通りリフレッシュしたようでした。

同期の仲間として、今後も横のつながりを大事に成長する姿に期待したいと思います。

〈新人教育委員会委員長 町田貴子〉

topics



例の夏祭りを催し、利用者さん12人が参加しました。出店の射撃では、皆さん狙い

を定めて高得点を連発し、駄菓子などの景品をゲット。スイカ割りでは皆さん「割れるかな」と遠慮げに言いながらも、いざ本番となると力の限りをたいてくれました。そして締めは、職員も輪になり盆踊り。約1時間半でしたが祭りを楽しみました。

割れたスイカはおやつに皆でおいしくいただきました。

(介護支援専門員 宮下達也)

子ども記者は緊張しながらも、「病院長、統括副病院長はなぜお医者さんになつたんですか？」などた



くさんの質問を投げかけていました。その後の病院見学ではレポートを見たり、外科医から直接話を聞いたり、初めての体験を楽しんでいました。

どんな記事を書いてくれるのか、私たちも楽しみです！

(総務広報課 渡邊真衣)

新潟県央基幹病院 子ども記者が来院 病院長らにインタビュー

7月26日、当院がある三条市に隣接する燕市の小学生5人が「広報つばめ子ども記者」として、遠藤直人病院長と岩淵洋一統括副病院長にインタビューをしたと来院しました。

これは子どもたちの良さを伸ばしたり、新たな可能性を広げたりするために燕市が独自で行なっている教育プロジェクトの一環です。



7月26日、神奈川県済生会が横浜市寿町健康福祉交流センターで実施した「無料健康診断」に、当院も参加しました。

本事業はなでしこプランとして生活困窮者を対象に、県内六つの済生会病院からのスタッフ派遣、また静岡県済生会からの健康診断派遣などにより年2回実施しており、当日は60人以上が受診しました。

健康内容は、身長・体重・視力・血圧の各測定、採血、採尿

〈神奈川〉若草病院 横浜寿地区での無料健康診断 「連れてきて、よかった」

健康診断でのX線撮影、医師の診察で、結果は郵送または9月の炊き出しの会で配付されます。筆者は初参加でしたが、採血の苦手な方に対してスタッフが励まし、無事に採血を終えたときには大きな喜びがありました。その際に支援者が「連れてきてよかった」とふと漏らした場面は印象的でした。

(済生記者 高木裕子)

〈愛媛〉西条病院 いつものショッピングが 健康と向き合うきっかけに

イオンモール新居浜との「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」に基づく取り組みとして、7月28日、イオンモール新居浜で「健康フェアアミニ」を開催しました。

血圧・血管年齢測定、インボ



ます」など、前向きな感想が多く見られました。

こうした地道なイベントが健康について考えるきっかけになり、日々の生活や次回のイベントにつながっていくのだという手応えを感じました。

(社会福祉課 森田真子)

〈滋賀〉小規模多機能型 居宅介護事業所済生会 なでしこ栗東 暑さ吹き飛ばす夏祭り

8月27日、当施設内で毎年恒

〔三重〕 松阪総合病院

手作りおもちゃに
大喜び！
院内保育園で夏祭り

8月24日、院内保育園たんぽぽ夏祭りを行ない、園児11人と保護者13人が参加しました。参加した0〜2歳児は、保護者とともに折り紙製の財布とお買物券、紙袋を持って各コーナーを回ります。甚平を着て参加する子もいました。



屋さん、お菓子屋さん、ヨーヨーすくい、金魚すくい。後半はワニワニパニック、スイカ割り、ボウリング、ボールプール、うちわ作りなどを楽しみました。道具やおもちゃなどは全て保育士のお手製です。子どもの手遊びを考え、牛乳パックなどの身近な資源やフェルトで色とりどりに作られたおもちゃを手に、園児たちは思い思いにお祭りを楽しんでいました。

最後は保育士と一緒に音楽に合わせてお遊戯を行なって締めくくりました。

（済生記者 岩崎貴穂）

〔山形〕 特養愛日荘

祭りには
やっぱり玉こんにゃく！

7月30日、入居者さん約80人が参加して「愛日荘夏祭り」を開催しました。近年の暑さと健康上の負担を考慮し、今年は屋外を避けて荘内での催しとしました。

ユニット内やホールに飾り付けを行ない、お祭り気分を盛り上げて迎えた当日、2階・3階ホールにはかき氷、たこ焼き、チョコバナナ、射的などの屋台が登場。中でも一番人気は、やはり山形名物「玉こんにゃく」でした。



今回提供した玉こんにゃくは、寒天を代用し丸めて醤油味にしたもの。日頃口にできないだけに、あちこちから「玉こんにゃうまいな〜、玉こんにゃくからしだなく〜」とのうれしそうな声が上がりました。

限られた時間中での開催でしたが、入居者さんから「楽しかったな。ありがとさま」と喜びの声をたくさんいただき、大好評で終わることができました。

（副主任介護職員 村上清美子）

〔愛媛〕 小田老健ふじの園

猛暑の中でも涼を求めて
そらめん流しで一句

夏真っ盛りの8月9日、当園

から車で5分ほどの「小田そらめん流し」に、入所者さん4人、職員2人で行ってきました。

水田の広がる小景をバックに隠れ家のような場所でした。流しそらめんは格別。時折吹く風がまた心地よく、皆さん「外で食べるのはおいしいね」と言いながら喜んでいました。

「ひとときを そらめん流しに興じたり」——帰園して俳句を詠む人もいて、暑い夏を少しでも涼しく感じる事ができたようです。また笑顔が見られる行事を考えたいと思いました。

（事務員 伊藤由美）

〔大阪〕 中津病院

大人も子どもも楽しめる
第1回無印良品イベント

株式会社良品計画と済生会の連携協定に基づき、8月22日、グランフロント大阪4階OpenMUIJでイベントを開催し、約35人が来場しました。

第1部では、森山明宏副院長兼産婦人科部長が「みんなが学ぼう ひとつの命ができるまで」と題して講演。命が産まれる奇跡や命の大切さについて話しました。



第2部は、「大人も子どもも楽しめる！わくわく健康チェック 医師&看護師体験」を実施。血圧測定や健康相談コーナーで看護師のアドバイスを聞いたり、子どもたちは白衣やナース服を着て胸骨圧迫や心音聴取体験を行なうなど、来場者は親子で楽しい時間を過ごしました。

（済生記者 鈴木亜希乃）

京都済生会病院

長岡京市と共同実施
2回目の「なでしこカフェ」

8月19日、当院でしこホールで認知症カフェ「なでしこカフェ」を開催しました。当院と



長岡京市認知症対策推進室が共同で実施したもので、昨年12月に続き2回目。今回は関係者含め約20人が参加しました。

吉田憲正院長の挨拶に続いて、医療ソーシャルワーカーの島田浩福社相談室長が当院の認知症ケア・せん妄対策チームの取り組みについて報告。

その後は、安田耕一郎作業療法士が講演と脳トレを行ない、シンガーソングライターの今村光志さんがフォークソングなど12曲を披露しました。参加者は昭和の懐かしい歌に手拍子打ち、口ずさみながら楽しいひとときを過ごしました。

（済生記者 白須優也）

〔大分〕 日田病院

1日・15日は巻き寿司の日

9月1日、入院患者さん70人にサラダ巻きと稲荷寿司を提供しました。

当院では、日付感覚を食事によって感じてもらいたいという思いから、毎月1日と15日を「巻き寿司の日」としています。多いときは100人分の寿司を一人の調理師が巻きます。ペーランの調理師により巻かれた寿司は、ご飯の硬さ・酢飯の塩梅・



見た目など完璧です。さまざまな制限が必要ですが、栄養素を調節し、多くの食種の方に巻き寿司を提供できるように努力しています。食事は入院生活の中での数少ない楽しみの一つ。病室を訪問したときにかけてくれる「おいしかった」の言葉や食札に書かれているメッセージに、栄養部一同いつも元氣

ぞ」と職員が大きな声で勧誘すると、入居者さんは少し圧倒された様子。一人ずつ屋台の前に来て、注文してもらいました。「全部食べていいの？ じゃあこれも」「アメリカンドック三つ」などと皆さんは好きなもの

を好きなだけ注文し、記念撮影や談笑をしながら食べていました。「よかったよ」「明日も来てくれたらいいの」と大盛り上がりでした。

（済生記者 長屋優治）



をもらっています。

（栄養部 管理栄養士 岡山真子）

岡山真子

〔福岡〕 二日市病院

コミュニケーション研修で新たな気づき

当院では階層別（管理職・中堅職・一般職）に研修を行ない、職員教育をしています。今年度のテーマは「コミュニケーション」。8月18日には中堅職向けの研修が行なわれ、筆者を含む対象者40人が参加しました。研修ではマイナビの「MBS



A診断」により価値観と行動特性を分析し、各人のスタイル（志向）を判定。その後、グループに分かれてスタイルごとの特徴やコミュニケーションの取り方などを学びました。全員見知った顔でしたが、スタイル分析してみると、なるほどと思うことや意外な側面に気づかされることも。また、関係性によって見え方が大きく違うことに驚かされました。今回の研修を通じて、今まで以上にコミュニケーションの重要性や難しさを認識することができました。

（済生記者 久富史史）

〔大阪〕 富田林特養富美ヶ丘荘
好きなものなんでもどうぞ！

8月9日、夏祭りを開催しました。当日はお祭り気分させる音楽を流しながら、ベビーカーカステラ、アメリカンドック、デコレーションデザートを準備した屋台で、入居者さん約120人の待つフロアを訪問しました。「いらっしやい、いらっしやい。はい、好きなものなんでもどうぞ

〔栃木〕 特養とちの木荘

活動の認知度アップへ
市外薬局で「いちごカフェ」

8月12日、「いちごカフェ」(出前サロン)を当施設がある宇都宮市に隣接する日光市の薬局で開催しました。

この活動は、県内の社会福祉法人が地域の生活困窮者や福祉の制度の狭間で困っている人々の相談を受け支援を行なう「いちごハートねっと事業」の一環。当施設から看護師・管理栄養士・介護支援専門員など5人が参加

しました。昨年に続き2回目の今回は、骨密度測定や介護相談、食のアドバイスのほか、子ども向けにお菓子釣りやヨーヨー釣りを行ない、幅広い世代の約20人が来場しました。「宇都宮病院は知っていただけ、とちの木荘や高齢者ケアセンターが済生会の関連施設とは知らず、参考になった」との声があり、他市町での認知度の低さと、また多くの潜在的なニーズがあることを再認識しました。

（済生記者 川上藍美）



9月14日、敬老のお祝い行事の一環として民謡ボランティア「三日月美会」の皆さんを招いて、民謡（民謡に合わせておどる踊り）を披露してもらいました。

この民謡は、近隣のフラワーアレンジメント教室「花のピーンズ」の西尾真理先生をはじめ

〈大阪〉野江特養城東園
長寿を祝う民謡



閉会式では伊東博史副院長が「医療に携わる仕事に就いて身近な人を含め多くの患者さんを助けてほしい」と挨拶。人気ドラマにあやかり、未来の医師認定証として黒く塗ったベアン（止血用針子）を授与しました。セミナーの模様は地元テレビ局2社で紹介されました。

（済生記者 安岡佳成）

8月8日、県内の中学生を対象に医療体験「ブラックジャックセミナー」を開催し、中学生10人・高校生15人が参加しました。

午前中は内視鏡室、超音波検査室、手術室、救急外来を見学。超音波検査や手術支援ロボットの「ダビンチ」の操作体験、救

セミナー参加者に
ブラックベアンを授与

〈山口〉下関総合病院

皆さんの熱気を感じるほどの盛り上がり。次回は来年3月ですが、「それまで待てない」と今から楽しみにしている人もいました。

（係長 相談員 中西茂人）



急搬送患者の処置の見学、救急隊員による救急車内の案内など、実際の医療にも触れました。午後は腹腔鏡や電気メスの操作、ブタの心臓を使った大動脈弁置換術の練習、モデルを用いた内視鏡検査体験などの実習を行っていました。

とするボランティアの協力により、年2回の恒例行事となっております。今回は利用者さん42人を前に、「高校三年生」「お祭りマンボ」など踊りを見ながら口ずさめる5曲のほか、自然に手や体が動いてしまう「炭坑節」「河内音頭」を披露してくれました。

空調管理された室内ですが、

（済生記者 白須優也）

めの事業プランニングが必要であることなどについて話しました。

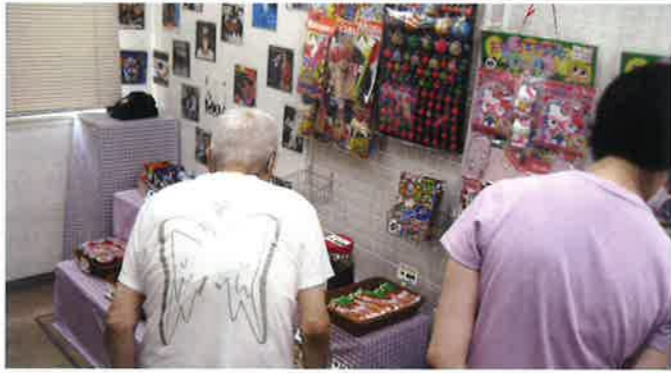
今回の協定が相互の教育・研究活動、人材育成などに寄与し、質の高い医療の提供につながることを期待しています。

駄菓子屋オープン！地域の憩いの場に

〈北海道〉小樽老健はまなす

地域住民・入所者・通所者の皆さんの憩いの場所をつくろうと準備を進めてきた「駄菓子屋はまなす店」（仮称）が、8月30日、ついにオープンしました。

開店予告はあまりしていませんでしたが、初日から10人が来店するなど大盛況。中には待ちかねていたかのようにたくさん購入する通所者さんも。訪問診療にきた歯科医院スタッフは「これおいしいですね。次回



院長先生に買ってもらう」などと言いながら物色していました。

「お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんにはどこか懐かしさを感じる展示や音楽もあります。気軽に立ち寄ってほしいですね」と店長の本間勝利看護長。入所者さんや職員に大人気の看板犬のゆきちゃん。毎週火曜の夕方に出勤予定です。

（済生記者 伝法俊和）

ヒヤリハット事例を受け
事故防止研修

〈山形〉特養やまのべ荘

ヤリハット事例が発生しました。幸いけがはなかったものの、重大事故につながりかねない事例。これを受け8月4日、事例検証と再発防止のための事故防止研修を実施し、運転手と介護職員等11人、入居者さん1人が参加しました。



通院のため入居者さんを福祉車両で送迎中、ブレーキをかけた際にリクライニング式車椅子からずり落ち、フットレストに尻をつくりました。

検証の結果、腰の痛みをやわらげるためクッションを使用していたことで座面への腰かけが浅くなり姿勢が崩れていたことが主因と判明。ずり落ちを防ぐには入居者さんの姿勢やリクライニングの角度を調整した上で、滑り止めマットを使用する必要がありますことを確認しました。研修結果は職員全員で共有しました。

（済生記者 岩田恭寛）

大学との連携で
医療DXの前進に期待

京都済生会病院

昨年8月に京都女子大学と締結した「連携・協力に関する協定」を記念する講演会を、8月29日に当院なでしこホールで開催し、当院職員約60人が聴講しました。

基調講演は、京都女子大学データサイエンス学部・安川文朗教授による「病院医療とデータサイエンスの懸け橋を創る」。AI時代に病院が生き残るには国の政策の後追いではなく、実現したい医療の先取りが必要であること、広義の医療DXに本気で貢献する覚悟と戦略、地域から徹底的な信頼を得るた

職業紹介冊子で
当院をPR

地元テレビ局・新潟総合テレビ（NST）が企画し、新潟市内の中学1年生約6000人に配布する職業紹介冊子「にいがたのおしごと本2024」



に、当院の取材記事が掲載されました。
この冊子は全部で38の職業が、1施設当たり見開き2ページで紹介されています。
当院はトップバッターを飾り、最初のページには入職5年

目の有田成美看護師が登場。写真とともに自身の仕事内容ややりがい、看護師を目指す人へのアドバイスなどが紹介されました。次ページには病院全体の紹介があり、救急医療や予防医療、DMAT活動など、子どもた

〈愛媛 今治病院〉

病院の仕事を楽しく学ぶ

8月24日、イオンモール今治新都市で「病院お仕事体験会」と「健康相談会」を開催しました。



ちが病院の活動を具体的にイメージできる写真と記事が掲載されています。
将来当院に就職してくれるきっかけになればと期待しています。
（総務課 吉川未織）

「病院お仕事体験会」では、看護師・診療放射線技師・理学療法士・言語聴覚士・臨床検査技師・薬剤師・管理栄養士の仕事を、子ども向け（6〜12歳）に体験できるブースを設置。

和歌山病院

総勢48人で「ぶんだら節」

8月3日、和歌山の夏の風物詩「第56回紀州おどり・ぶんだら節」が開催され、当院は昨年

に続いて参加しました。「ぶんだら節」は、昭和44年に始まった伝統のあるお祭り。ミカンを江戸に運んだ紀州出身の豪商・紀伊國屋文左衛門にちなんだ紀州おどりを踊りながら和歌山城周辺を練り歩きます。今



を実施。二つのイベントに延べ210人が参加し、盛況でした。
（済生記者 村上景助）



年は全68団体が名を連ねました。当院からは川上守院長・英肇統括副院長をはじめ、職員やその家族を含め総勢48人が参加。初めての人も多く、多職種のスタッフ同士、親睦を深めることができました。

この日の最高気温は34・3度。事前に練習を行ない一体感を高めた甲斐もあり、酷暑に負けな

い踊りを披露し、夏の夜を盛り上げることができました。
（済生記者 松元靖寿）

岡山済生会ライフケア

センター

暑さに負けずに盆踊り

8月23日、5年ぶりに納涼盆踊り大会を開催し、利用者さん、ご家族、地域住民合わせて100人前後の皆さんと楽しいひとときを過ごしました。

当日は18

皆さんの八朔おどり、和太鼓の競演や花火で盛り上がりました。猛暑で参加者の体調が心配でしたが、20時過ぎの閉会まで元気に参加した利用者さん。「盆踊りも太鼓も花火も全部楽しかった」と笑顔で答えてくれました。

（済生記者 前田明子）



時50分の開会に向け、利用者さんと職員は早めに夕食を済ませました。34度を超える暑さの中、会場となる駐車場に集合。前田幸夫センター長の挨拶で開会すると、櫓の上では太鼓が打ち鳴らされ、桃太郎音頭を始めとする盆踊り6曲と町内会の

〔愛媛〕小田特養緑風荘
長寿界の「横綱」を表彰

9月12日、入居者30人と短期入居利用者1人、デイサービス利用者5人が参加して、敬老のお祝いをしました。
相撲の番付風というと、横綱（102歳）、大関（101歳）、関脇（100歳）の3人と併せて白寿（99歳）2人・米寿（88歳）3人に対し、表彰を



行ないました。

最高年齢の「横綱」は大正10年生まれの102歳、まだまだお元気です。表彰式では恥ずかしそうにしながらも、素敵な笑顔を見せていました。

式の後には職員も交えて屋台遊び。チョコバナナやジュースで休憩しながら、ヨーヨー釣りや射的、コイン落としなど、昔懐かしい遊びを楽しみました。にぎやかな雰囲気の中は笑顔に包まれました。

（事務所 宮内由圭）

〔長崎〕特養なでしこ荘
小規模でも充実の夏祭り
綿あめや景品に笑顔

梅雨明け間近の7月19日、特養ユニット全体で「夏祭り」を開催しました。当初は入居者さんご家族にも参加を呼びかけましたが、開催日が近づくにつれ長崎市で新型コロナウイルス感染者が増加し、やむを得ず入居者さんのみ約55人での開催となりました。

ユニットリーダー副主任とユニットリーダーが中心となり夏祭りを担当。会場には、くじ引き、射的、ヨーヨー釣り、綿あ



め、輪投げ、写真スポットなどの出店を並べ、開催日前日まで準備に追われていました。

当日は、各ユニットのスタッフが協力し、入居者さんを誘導して祭りを楽しんでもらいました。うれしそうに綿あめや景品を手取る姿が見られ、小規模ながら和やかな夏祭りとなりました。

（長崎福祉センター 済生記者 川瀬義博・川端 誠）

〔茨城〕水戸済生会総合病院
納涼会で心のケアも

8月7日、緩和ケア病棟で納涼会を行いました。

人が参加しました。

実際に治療現場で使用される医療機器を用いた手術体験セミナーで、2014年から開催し今回で8回目。生徒たちは超音波メス体験や手術縫合体験、内視鏡トレーニング、救命救急体験など、六つのアクティビティに挑みました。30人を超える外科医・救急医・研修医による熱心な指導の下、生徒たちは真剣な眼差しで取り組んでいました。

セミナー終了後、生徒たちからは「先生たちが優しくして面白かった」「普段できない貴重な体験ができた」「医者のお仕事をあらためて感じた」などの感想が寄せられました。このセミナーが、医師を志すきっかけとなることを願っています。

（済生記者 川原彩花）

〔愛媛〕松山病院
中学生4人が職場体験
将来像が具体的に

9月9・10日、松山市立旭中学校2年生の生徒4人が来院し、職場体験学習を行いました。生徒たちは2日かけて薬剤部、看護部、画像センター、栄養科



など院内各部署を回り、業務内容の説明を受けました。検査室では実際の検体を顕微鏡で観察したり、リハビリテーション科では片脚骨折を想定して松葉杖歩行をしたり、CE部では人工呼吸器や輸液ポンプの操作をしたり、いろいろな体験をしてもらいました。

「どんな仕事に興味がありますか?」との問いに、最初は漠然と「医療関係」と回答していた彼らでしたが、体験後には具体的な部署名を挙げて「面白かった」と笑顔で答えてくれました。

（総務課 藤井一哉）

病棟スタッフは浴衣と甚平に着替え、10組の患者さんやご家族をお出迎え。浴衣姿のスタッフに患者さんからは「かわいいね」「夏祭りに来たみたい」と声がかかり、スタッフも自然と笑顔になりました。



に焼きそばやたこ焼き、かき氷を食べました。久しぶりに参加する夏祭りにたくさん笑顔があふれ、患者さんやご家族、スタッフの思い出に残る一日となりました。



第8回 ブラック・ジャックセミナー



〔栃木〕宇都宮病院
未来の外科医への
第一歩!

8月17日、ブラック・ジャックセミナーを開催し、中学生38

緩和ケア病棟では、病気による痛みや苦しみの軽減のための治療や身体的ケアと同時に、季節のイベントを開催するなど心のケアを大切にしています。

（緩和ケア病棟看護課長 石川知加子）

（松本）宇都宮病院

topics



品質保証施設に認証 〈鳥取〉 境港総合病院

そうめんをフォークですくって器に入れることに夢中で、そうめんがどんどん器にたまっています。他の2人はとにかく食べたいのですが、肝心のそうめんがなかなか流れてきません。皆が満足できるようにと、必死になってそうめんを流す職員。いつも以上にぎやかで笑い声が響く昼食となりました。

(済生記者 大貫典子)

続き今年も「品質保証施設」に認証されました。日本臨床衛生検査技師会(JAMT)と日本臨床検査標準協議会(JCLS)が合同で審査し認証するもので、認証期間は2年間。認証を受けるには複数の外部精度管理調査を毎年受け基準以上の成績をおさめ、臨床検査データ標準化の実績、人的資源の確保といった要求事項を全て満たす必要があります。当院臨床検査科は、臨床化学、免疫血清、微生物、血液一般、生理、輸血の7部門で認証されました。

藤原弘光臨床検査科技師長は「患者さんから信頼される臨床検査科であり続けるために、これからも精度の高い検査結果を提供できるよう日々の精度管理と適切な人材育成に努めます」と今後の意気込みを述べました。

(済生記者 亀尾美子)

夏休み・新学期を前に 食品・学用品736点を 寄付

第6回フード&学用品ドライブ事業を、7月1日から16日に

〈福岡〉 飯塚嘉穂病院

今回は、静岡新聞に掲載された紹介記事を読んだという2組の親子の参加もあり、防災への関心が高まっているよううれしいです。テレビ局の取材も2局ありました。最後の工程「仕上げ作業」も本誌で報告します。

(地域相談員 望月亜紀)



防災かまどベンチ作り 暑さと戦い「レンガ積み」

本誌9月号で、かまどベンチ制作の最初の工程「基礎作り」を紹介しました。今回は次工程の「レンガ積み」を8月11・12日に地域の小学校(参加者18人と中学校(同10人)で実施。水平器を使い、一つひとつレンガの水平を確認しながら5段のレンガを積み上げました。

両日とも暑さとの戦いで、汗にまみれながらの過酷な作業でしたが、「かまど」になった形を見て、誰もが達成感と感動でいっぱいになったと思います。



人生初の「流しそうめん」

8月23日、3歳児4人の昼食で、「流しそうめん」を行ないました。「家庭的な食事の雰囲気味わわせてあげたい。夏の思い出を作ってあげたい」というクラス



職員の提案によるもので、自宅の流しそうめん器を電車で持参してくれました。4人にとっては生まれて初めての経験。2人は、流れてくる



「次回はいつありますか」といった問い合わせがありました。これを機に、この活動が広まり、地域に根付くものとなれたいと思います。

(地域医療連携室 係長 岡松佳央里)

〔大阪〕千里病院
作業療法士が職員に
リハビリ基本動作を伝授

9月5日、リハビリテーション部の作業療法士が職員を対象に講義を行ない、看護師や看護助手など5人の職員が受講しました。

講義では作業療法士が「起居」や「移乗」といった基本動作のポイントを説明しながら実演。手の位置、動かす方向、足の置き方などを丁寧に指導し、動作の違いによって患者さんの移動がよりスムーズになることが実証されました。

この取り組みは患者さんの



ADL・QOLの向上を目的に、職員同士の積極的な交流の場として今年度から開始し、今回が2回目。リハビリに関する学びたいテーマを職員がリクエストし、その希望に沿った内容でリハビリテーション技師が講義・実技指導を行ないます。基本的な動作介助の習得は腰痛の軽減にもつながると期待されます。

（済生記者 二階堂潤江）

〔神奈川〕湘南平塚病院
90周年記念ストラップで
病院全体に一体感

創立90周年を迎えた当院は、職員の一体感を高めるため、おそろいの「ネームカード用ストラップ」を作成しました。院長をはじめ、職員、ボランティア、売店や清掃業者のスタッフなどへ470本を配布し、8月13日から着用しています。

（済生記者 有馬真由美）



デザインは、済生会の「すべてのいのちの虹になりたい」との思いを象徴する虹と、シンプルで落ち着いたネイビーの2パターンあり、リバーシブル仕様になっています。どちらも、病院内外の幅広い場面に対応できるように工夫されています。



できるように働きかけています。

（済生記者 川崎菜美）

滋賀県病院
救急医療の高みを目指して
藤山医師に知事表彰

9月9日、救急医療功労者知事表彰が行なわれ、当院診療部長の藤山准真医師が受賞しました。

藤山医師は表彰を受け「当院

急医療功労者知事表彰



での10年以上の経験を通じて、地域における救急医療の重要性を深く認識し、その一端を担う責任感を強く感じています。今後も地域医療の基盤を支えるべく、微力ながら尽力していきます」と抱負を述べました。

当院は救急搬送患者数が多く、



〔山口〕豊浦病院
こころもからだも
エナジーチャージ

8月28日、豊浦町にあるカフェを貸し切り、新人看護師6人がリフレッシュ研修を行ないました。

社会人となり豊浦病院の仲間

症例も多岐にわたります。今後全職員一丸となって、地域住民の皆さんに安心して受診してもらえよう質の高い救急医療の提供に努めてまいります。

（済生記者 有馬真由美）

〔山口〕豊浦病院

として約5カ月間を走り続けた新人看護師たちは、不安と緊張の連続だったと思います。そんな気持ちを吹き飛ばしてもらおうことが本研修の目的です。

まずは絶品ハンバーグと、もちふわブルワップのランチでエナジーチャージ。続いて、ドライフラワーアレンジメント作りに挑戦しました。グループワークでは「新人看護師大ピンチ図鑑」を作成し、あるある話に大盛り上がり。最後は先輩からのメッセージカードとプチギフトにしつとりする場面も……。まさに元気を回復するリフレッシュ研修——また明日から頑張れる！と思えた一日になりました。

（看護部教育倫理委員会 委員長 林 美代子）

岡山済生会総合病院
モチベーションをもっと！
セミナーに34人

9月7日、3～5年目の職員を対象に「もっと！モチベーション向上セミナー」を当院さいゆうホールで開催しました。

講師はキャリアコンサルタント資格を持つ林原麻衣



子公認心理師で、当日は34人が参加。自分のこれまでの経験を振り返り、仕事へのモチベーションがどのように推移したかをグループで共有し、意見交換をしました。また、働く上で大切にしていることを実現するために、今後の働き方にひと工夫加えるとしたら何ができるかを考えました。

参加した倉元友梨理学療法士は「それぞれのモチベーションは異なるが、自分自身をよく知ることによってモチベーションコントロールできることを学びました」とセミナーでの収穫を話しました。

（済生記者 高畑貴子）

未来を切り開く夏
集中学習で成長を実感

長崎病院

長崎県済生会が「将来医療人となり長崎の医療を支える人材」の育成を掲げて4月からスタートした済生会こども鳴滝塾では、7〜8月の夏休み期間中に追加学習を実施しました。塾生6人は普段の学習に加え、集中的な学習機会を得ることで、学力の向上と自己成長につなげ



ました。

計6日間の追加学習では、「医療者からのメッセージ」と題して医療スタッフによる講話を実施。さまざまな医療職の魅力について理解を深める機会を提供しました。この取り組みを通じて、塾生たちは新たな学びと目標を得て、今後の学習に対する意欲をさらに高めました。

(経営企画室 河野太祐)

富山病院

健康管理センター増築
健診フロアが3倍の広さに

昨年8月から進めていた健康管理センターの増築工事が完了し、8月26日、竣工式を執り行ないました。

院内の現健康管理センターを



拡充・増築したもので、地上4階建て。1〜3階の健診フロアは現在の3倍の広さとなり、受け入れ人数も1・5倍の年間1万3000人を見込んでいます。

防災に強い機能を備え、環境・自然と一体になった環境配慮型施設であることが特色。内装には富山県産の木材を取り入れ、温かみのある作りとなっています。また、ジェンダーレスに配慮した更衣室やトイレ、職員研修や地域住民向け講座の実施に適したセミナー室も設けました。4階の職員専用フロアは休憩スペースとして利用する予



定で、仮眠室も設けられています。(済生記者 浅野由紀)

〈神奈川〉湘南平塚病院

七夕飾りがもたらす
前向きな力

当院一般急性期病棟では7月1日から20日の間、七夕の飾り付けを行いました。

「今日は暑いのか？ 寒いのか？」病院の中に行くと分らない」という言葉がよく聞かれるように、入院生活が長くなると、季節の移り変わりが感じにくくなります。また、気持ちも沈みがちです。そこで、患者さんに少



しても季節を感じてもらおうと七夕飾りの短冊をお渡ししたところ、患者さん15人ほどが一生懸命に願いをしたためてくれました。

年長児19人はオニオンスープを作りました。

「早く元気に歩けるようになりまますように」家に帰りたい「リハビリ頑張ります」——短冊に願いを込めることで、患者さん自身も前向きな目標を再確認し、それがリハビリのモチベーションにもつながっていると感じます。(介護福祉士 伊藤智子)

長野保育園

畑のタマネギで
オニオンスープ作り

当園ではボランティアの田中三四郎さんに助言をもらいながら畑の野菜を育て、収穫をしています。今年は6月6日に253個のタマネギを収穫。



(保育士 大高真希)

〈山形〉特養ながまち荘

夜間に警報発令……
想定避難訓練で備える

8月21日19時から、夜間風水害訓練を実施しました。日中から続く大雨で、夜間に当荘東側を流れる馬見ヶ崎川に氾濫の危険性が高まり、「高齢者等避難」が発令された想定。実際の利用者さん14人のほか、



利用者役の職員12人、その他38人の職員が避難誘導係や救護班等に分かれ参加しました。警報が発表されると夜勤リーダー役の職員がすぐに手分けを指示し、避難を開始。施設西側安全避難棟2階へと誘導しました。不安そうな利用者さんへの落ち着いた言葉がけも忘れません。避難開始から20分、全員の避難が終了。実際に100人を避難させるには1時間半から2時間程度かかると予想されます。早めの判断と行動ができるよう、繰り返し訓練を行なっていきます。(済生記者 高見友郁)

topics

使用目的について学習しました。人工呼吸器の学習では、人工鼻とマスクを用いて人工呼吸器を体験してもらうことで、種類・設定の違いをより理解してもらえたと思います。

実習最終日には、もし自分がRSTメンバーであれば、どのような関わり・提案ができるかを発表してもらいました。5人全員の各々の専門性を生かし



科2人、管理栄養学科、臨床工学科、医療健康データサイエンス学科がそれぞれ1人)を受け入れ、多職種連携実習を実施しました。

実習では呼吸ケアサポートチーム(RST)の活動内容と人工呼吸器の種類や設定の違い、



8月22〜28日、当苑デイサービスで夏祭りを開催し、延べ120人の利用者さんでにぎわいました。

例年通り、かき氷・綿菓子・ジュースなどの屋台が軒を連ねます。ゲームも充実しており、射的や千本引き、魚釣りといったおなじみのものに加え、今年にはワニバナピックが初登場し

屋台もゲームも充実 大盛況の夏祭り

〔静岡〕 特養小鹿苑

た提案に、実習の成果を感じることができました。

(薬剤部 佐久間隆幸)

AEDを使用した心肺蘇生法や窒息時の対処法など、緊急時に不可欠な基本的救命スキルの習得を目的とした「救急講習(救命入門コース)」を、7月23・30日、当園多目的ホールで開催しました。

当園の事故発生防止委員会が主催し、大野市消防署警防課の救急救命士が講師を担当。両日とも同じ内容で、新入職員や希

緊急時に、冷静に 講習で救命スキルを磨く

〔福井〕 特養聖和園

(デイサービス 平原 聡)



望者など合計30人が参加しました。

参加者からは「実際の機器を使って手を動かして練習することで自信がついた。緊急時に冷静に対応できるようこの経験を生かしたい」との声が寄せられました。

(済生記者 野尻 宗)

多様なニーズに対応 病院コンシェルジュ

富山病院

患者さんの多様なニーズに対応しサービスの向上を図るため



に、5月から外来総合案内に「病院コンシェルジュ」を3人新規採用しました。

仕事は受付や会計、院内の案内、車の乗降や車椅子移動の介助。それらの合間を縫って外来設備の清掃・整備や記入用紙等の管理・補充・差し替え、紛失物の対応など多岐に渡ります。

コンシェルジュの配置前は、

外来受付担当職員が各案内などを行なっており、その間、患者さんを待たせてしまうことがありましたが、現在はスムーズな対応が可能となりました。患者さんからも「不安な気持ちで



来院したが、話を聞いてもらえ、落ち着いた」との声をいただいています。

(済生記者 浅野由紀)

〔東京〕 向島病院

延長するほど大好評! JKK東京と共催イベント

7月10日、JKK東京(東京都住宅供給公社)の西大島住宅で、当院スタッフによる講演会を開催しました。

JKK東京との共催による講演会は今回で3回目。認知症認定看護師、理学療法士、管理栄養士に加え、今回は薬剤師も講師として参加しました。それ



ぞれの分野の専門家の話に、集まった約20人の地域住民は熱心に聞き入っていました。フレイル予防体操は今回も好評で、一番の盛り上がりを見せました。

講演会の後には、各講師に直接質問や相談ができる個別相談会を実施。こちらも相談者の列ができるほど好評で、予定時間を1時間以上過ぎての終了となりました。

(済生記者 加藤建志)

〔三重〕 松阪総合病院

4学科の学生が 多職種連携の実習

8月20日から3日間、鈴鹿医療科学大学の4年生5人(薬学

夏休み子ども病院見学会

新潟病院

小学4～6年生対象の「子ども病院見学会」を、7月30日に5年ぶりに開催し、地域や職員の子どもたち24人が参加しました。

医療現場を知ってもらおうと、「病院ってどんなところ？」の講話や施設見学・医療体験ラリナー、院長・看護部長への質問コーナーといった内容で実施。薬剤部での調剤、栄養科の栄養指導、検査科での血液型検査、車椅子やベッドでの患者さん体験、



医療機器での実験、手の洗い方体験など、さまざまな体験をしてもらいました。子どもたちはどの内容にも興味津々で、特に救急車への乗車体験は思い出になったようです。

この日の体験が、将来医療者となるきっかけになったとしたりうれしいです。
(事務局 木村貴子・西山陽子)

〔福井〕特養聖和園

ベッド上での吐物処理研修
丁寧さと冷静さが鍵に

8月30日、「ベッド上での吐



物処理研修」を当園ホールで行ない、29人の職員が参加しました。
実施のきっかけは、前回、床での処理研修が行われた際に「ベッドの上ではどう対応すればいいのか」という声が多く寄せられたこと。当日は感染対策委員が講師を務め、手順を一つひとつ丁寧に学ぶ実践的な内容となりました。

参加者は「冷静に指示してくれる人がいないと、ちょっと不安になるかも」「手順は多いが、一つひとつ丁寧に進めることが大切」と感想を述べました。

研修後には多くの職員が自信を持って取り組む姿勢を見せ、学びを明日からのケアに生かそうとする意欲が強く感じられました。
(済生記者 野尻 宗)

福井県済生会病院

仲間のために立案・実施
肩こり予防プログラム

7月24日、職員を対象とした



肩こり予防や改善を目的としたストレッチプログラムに希望者10人が参加しました。

このプログラムはリハビリセラピストの理学療法士・土橋仁さんが「肩こりを訴える人は多く、業務の生産性が低下する要因。少しでも同じ職場で働く仲間の力になりたい」と提案し、実施に至りました。

当日は、肩こりの原因、正しい座り方やどこでもできるストレッチなどを実際に体験し、その方法を学びました。

参加者からも好評で、土橋さんは「今後もフォロアッププログラムを行ない、肩こりの悩みを少しでも改善していきたい。普段の運動習慣や作業環境を見直すきっかけになればうれしい」と意欲的でした。
(済生記者 田中一弥)

〔大阪〕泉尾特養第二大正園
童心に帰った夏祭り

7月23日、3・4階の各フロアで夏祭りを開催し、計127人の利用者さんとお祭り気分になりました。

この日の昼食は、屋台の人に扮した職員が作る焼きそば。ソースの香りがフロア全体に広がり、皆さんも普段より箸が進んでいました。



急性病院として高いレベルでの地域貢献を目指す当院。救命に対する強い意志と緊張感を持ち、チーム力が高まった一日となりました。
(副看護部長 萬野知代子)

山口総合病院

講習で急性期病院として
レベルアップ!

8月10日、コースディレクターに山口大学医学部附属病院の澁谷正樹先生を迎えて、救急蘇生講習会(JMECC)を実施しました。

当日は、当院のインストラクター・急変対応チーム(RRTチーム)7人が中心となり、研修医4人、看護師2人を対象に講習を行いました。特にBLS(一次救命処置)、気道確保、DC(直流除細動器)使用など、実際の症例展開を行なう中で、専門家から貴重な意見やアドバイスを聞

〔熊本〕 済生会ほほえみ

音楽のチカラで元気に

コロナ禍で中止していた音楽ボランティアとの交流を、7月10日、しばらくぶりに再開しました。

当日は生活介護の利用者さん22人、ボランティア4人、職員



7人が参加。ボランティアの皆さんとは久しぶりでドキドキワクワクの利用者さんでしたが、「元気だった?」「覚えてるよ!」と気さくに声を掛けてもらい、すぐに打ち解けること

ができました。

選曲は懐メロや童謡、最新の曲まで多種多様。手遊びをしながら歌ったり、手作りのゲームをしたり、手足を大きく振りながら踊ったりと、幅広い年齢層が楽しめる内容でした。

不安を抱えている人の表情が徐々に明るくなるのを見て、改めて、音楽のチカラを強く感じました。

〔支援員 岩下慶子〕

〔北海道〕 小樽老健はまなす

今年最後!?の焼肉祭りだ!

8月22日、通所利用者さん35人が参加して焼肉祭りを開催しました。7月から入所者さんのフロアごとに順次行ない、今年最後の開催になります。

この日のメニューは「青森のバラ焼き」「室蘭やきとり」そして北海道といえば「ジンギスカン」の3種類。スタッフは1人で2〜3つの鍋を掛け持ちで焼くほどの力の入れようです。

食べる方は皆満面の笑顔で、3種類の焼肉をペロリと平らげました。さらにおにぎり、枝豆、スイカなどもあり、「おなかがいっぱい」「太っちゃう」など



の声もちらほら。昼からは食べた分のカロリーを消費しようとしつかりハビリを行ないました。

館内には焼肉のにおいが充満し、職員は「においでご飯3杯いける」「焼肉食べたい!」「ビール飲みたい!」など余韻に浸っていました。

〔済生記者 伝法俊和〕

〔三重〕 松阪総合病院

更生保護施設で無料健診

9月8日、更生保護施設「上弁財荘」で無料健診を実施し、

生活をしています。

当院では2010年から三重県済生会支部の事業として、明和病院と交代で同施設での健診事業を年2回実施。疾患をそのままにしている人も多く、診

済生会福岡総合病院臨床研修医同窓会



99人で同窓会! 苦楽を共にした仲間と再会

福岡総合病院

8月11日、当院で臨床研修を受けた医師たちが一堂に会する「済生会福岡総合病院臨床研修医同窓会」(第2回)を、ホテルオークラ福岡で開催しました。

当日は松浦弘院長をはじめ当院医師5人、来賓2人、第1期から19期までのOB・OG88人、現在研修中の4人の総勢99人が参加しました。

新しい医師臨床研修制度が施行された2004年以降、当院では220人が初期臨床研修を修了し、それぞれの道で活躍しています。医師となって最初の2年間、助け合い、励まし合って過ごした仲間たち。久しぶりに再会した人も多く、近況

や思い出話に花を咲かせていました。

司会を担当した臨床研修担当の定永倫明副院長は、それぞれの活躍を喜びながら「皆さんの元気な姿が見られてよかったです。次回開催時にはまたぜひ参加してください」と挨拶しました。

〔経営企画課 木下昌子〕

静岡済生会療育センター

令和

ウクレレ演奏にフラダンス
ハワイな気分であろハ!

9月11日、当センター内で入所者さん10人がフラダンスのパフォーマンスを楽しみました。

披露してくれたのは、静岡市のシニア世代で構成され、障害者施設などで地域貢献活動を行なうJAハワイアンサークルの皆さん。ウクレレやギターの優しい音色とスローテンポのハワイアンミュージックがとても心地良く、ゆったりとした時間を過ごせました。

中でもフラダンスは、3回の衣装チェンジもあり華やかでとても素敵でした。入所者さんは一緒に手を揺らしたり、手拍子をしたりと楽しそうでした。ハ



ワイ語の挨拶「アロハ」を覚え、貸し出してくれたレイとハワイアンスカートも身につけてハワイの気分を堪能しました。

〔済生記者 大須賀彩音〕



神奈川県病院 未来の医療従事者を育て インターンシップに17人

8月7日、横浜市内の高校生を対象にインターンシップを実施し、17人が参加しました。
参加生徒は、志望する職業（看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師）に分かれて医療現場のリアルを体験。業務を

〔栃木〕特養とちの木荘 栃木支部でも養成研修開催 ラジオで連携士を紹介

7月23日、「コミュニティ



体験するだけでなく、医療チームの一員としての役割や責任についても学びました。
参加者たちの真剣な眼差しが印象的で、終了後の感想では「あこがれていた職業なので実際に体験できてうれしい」という声も。病院での仕事に対する理解を深め、進路選択への意欲が高まった様子がうかがえました。
(済生記者 小山友輝)

回目。今回は、施設で働く専門職としてのやりがいや印象深いエピソードのほか、筆者が済生会地域包括ケア連携士として活動の中心を担う「地域における公益的な取組」や今後の展望について話しました。
今後は当支部で連携士養成研修が開催されますが、連携士の最大の役割はインクルーシブ社会の実現に貢献することです。法人の垣根を越えて多機関と協働しながら、地域ニーズに沿った公益的な取り組みを実践していきます。
(企画相談担当リーダー 大嶋小貴子)

〔大阪〕泉尾医療福祉センター 3施設合同で長寿の式典

当センター内の三つの高齢者施設（泉尾特養大正園、泉尾特養第二大正園、軽費老人ホームケアハウスつつじ荘）による「長寿の祝い 合同式典」を、9月14日、5年ぶりに開催しました。当日は各施設から入所者さん57人、来賓12人が参加。101歳の入所者代表が凛とした声で謝辞を読み上げ、山あり谷ありの人生をしっかりと歩み進めら



滋賀県病院 病院の仕事に触れてみよう

当院で開催した夏休み特別企画の病院体験イベント「ミッシェンインホスピタル」は、8月17日、約50人の子どもたちとこ

れてきた重みと貫禄を感じました。他の入所者さんも心なしか誇らしげで、背中がぴんと伸びているように見えました。
これからも皆さんが笑顔で心穏やかに過ごしていただけるように、職員一同力を合わせて頑張りたい。あらためてそう思える合同式典となりました。
(軽費老人ホームケアハウス つつじ荘 生活相談員 安達麻由子)



家族が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。

このイベントの狙いは、病院の仕事に実際に触れる機会を子どもたちに提供し、医療への理解を深めてもらうこと。看護師の点滴、薬剤師の調剤、診療放射線技師や臨床検査技師による画像診断、医師や臨床工学技士による電気メス操作など、さまざまな医療職の業務の一端を体験してもらいました。ほかにも、救急の仕事や正しい姿勢に関するミニセミナー、ドクターヘリやドクターカーの見学も実施しました。

参加者からは「将来、医療職

を目指したい」「貴重な体験ができた」など、うれしい声が多

警察音楽隊の生演奏を真近で体験

7月11日、院内保育園「はあとランド」に熊本県警察音楽隊の皆さんが初来園し、園児と保護者、病院職員約90人を前に素敵な演奏を披露してくれました。
曲目は、園児がリクエストしたディズニーマジックなどの人気アニメ主題歌から最新の話題曲まで盛りだくさん。子どもたちは、終始笑顔で音楽に合わせて体を揺らしたり、知っている



数寄せられました。

(済生記者 有馬真由美)

熊本病院



曲を口ずさんだり、踊ったり、楽しい時間を過ごしました。また、この機会に交通ルールについても子どもたちに分かりやすく教えてもらいました。

感性が豊かなこの幼少期に、生演奏を聴き、演奏者を間近で見ることができたことで、より一層子どもたちの感性が育まれていくことと思います。

(保育室 今吉美沙)

〔北海道〕小樽老健はまなす
自分で植えたジャガイモを
収穫したよ

9月17日、小樽市立塩谷小学校の1・2年生9人が、春に植えたジャガイモを収穫しに当施設の畑にやってきました。
当日は絶好のイモ掘り日和で、2〜3人のグループに分かれてイモ掘りを開始しました。ジャガイモが出てくるたびに「わ〜でかい」「こんな色のイモ、初めて見た」と興味津々の子どもたち。次から次へと収穫したジャガイモがコンテナにたまっていきます。



「お母さんが持って帰って来るの楽しみにしている」という声から、ご家族も楽しみにしていることが伝わってきます。収穫したジャガイモはもちろん、子どもたちと先生方にお土産として持ち帰ってもらいました。
塩谷小学校からは「来年度のカリキュラムにも作物の苗植え、収穫を入れたい」との要請がありました。さて、来年は何を植えますでしょうか。

（済生記者 伝法俊和）

〔茨城〕常陸大宮済生会病院
体を温めた後に
無料健康講座はいかが？

8月21日、常陸大宮市内の温

泉施設「ごぜんやま温泉保養センター四季彩館」で、なでしこ健康講座を開きました。
当日は、理学療法士による腰痛予防体操と看護師による講話を実施し、温泉施設利用の市民を中心に14人が受講。

腰痛予防体操では理学療法士の指導のもと、参加者が椅子に座りながらできる簡単な運動を行いました。看護師による講話のテーマは「虫刺され・嘔吐・夏にびったりの話題で、皆さん熱心に耳を傾けていました。誰でも気軽に参加できる無料



健康講座として、昨年度は9回実施。今後もリハビリ体操に加え、管理栄養士や薬剤師による健康管理の講話など、折々に合わせたテーマで定期的開催する予定です。

（済生記者 笠井康宏）

〔栃木〕宇都宮病院
憧れの看護師になりきって
2日間で高校生86人

7月10日と24日、県内高校生を対象とした「ふれあい看護体験」を開催し、2日間で86人が



参加しました。

看護体験では、車椅子・スト

人。七夕の由来の説明を聞き、事前に作成した短冊やお飾りを各人が笹に飾り、願いごとがかなうように祈りました。
また、これからの暑い夏を乗り切ってもらおうと、冷やしう



どん、おにぎり、スイカ、コーヒゼリー、スイカの皮の漬け物など、涼しさを感じさせる食べ物や世話人さんの協力によりふるまわれました。
「おいしいですよ」という声から各ホームで響き、皆さん心から喜んでいました。

（支援員 山下賢二）

8月24日に開催された「新大工町商店街ふれあい夏まつり」で、当院は救急車の乗車体験を実施しました。これが人気を呼び、子どもから大人まで合計77人が乗車し、救急車内の医療機器を見学しました。
特に子どもたちの目が輝く様子が印象的で、多くの参加者から「普段は見られない救急車の

長崎病院

救急車乗車体験に77人
地域との絆を深める機会に

高校生からは「看護師になりたいという思いが強くなりました」「将来看護師になれるよう精いっぱい努力したい」「貴重な体験をありがとうございました」など、すてきな感想をいただきました。

（済生記者 川原彩花）

〔熊本〕済生会グループホーム
事業所
七夕会で涼を感じる食事

7月7日、済生会グループホームのうち1番館（あおぞらわかば）と2番館に入所している利用者さんを対象に、七夕会を開催しました。



「しあわせの木」に
認知症への思いを託して

9月は認知症月間ということもあり、当荘「おれんじサポーターチームえがお」は9月2日から5日間、山形市役所エントランスで認知症の普及啓発の展示を行いました。そこで展示した「しあわせの木」を、9月17日から当荘玄閣ホールに展示しています。

「しあわせの木」には、葉っぱに見立てた色とりどりのメッセージカードが茂っています。各カードには「山形市がこうなるといいな」「認知症の方にできること」をテーマに、地域の人や市役所来場者など200

人ほどの思いのたけが書かれています。
当荘に飾り始めてからは、デイサービスの利用者さんや職員

山形済生病院
院内保育所で夏祭り

8月3日、職員が利用している院内保育所で夏祭りを行ない、園児16人と保護者33人がお祭り気分になりました。
院内保育所では、季節に合わせたさまざまな行事を行なっています。今回は夏祭りというこ

にさまざまな思いをカードに書いてもらい、「しあわせの木」は日々成長しています。
(介護職員 武田はるか)

とで手作りの縁日セットで雰囲気づくり。親子でお面を手作りし、子どもたちは楽しげに金魚すくいにチャレンジしていました。本物のジュースを使ったお店屋さんごっこも大人気でした。子どもも大人も一緒に喜んでもらうことができ、準備してきた保育士も頑張った甲斐がありました。(済生記者 柏倉汐里)



〈東京〉中央病院
RST委員会が
勉強会を主催

7月26日、RST委員会が主催する勉強会を開催しました。RSTは、呼吸器ケアが必要な患者さんに対するケアの質

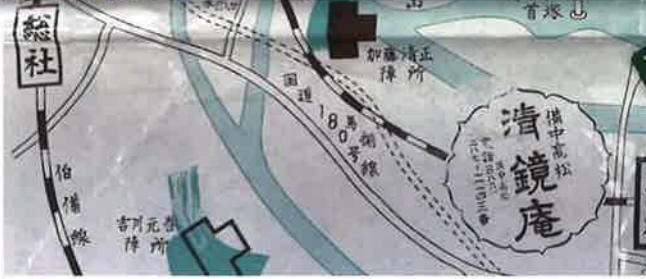


と安全性の向上を図ることを目的に活動している、院内多職種からなる呼吸サポートチームです。この日は新人職員19人を含む66人が参加し、呼吸器について基礎から学びました。
呼吸器内科の高橋左枝子医師

高松城水攻史蹟案内図

凡例

- 東軍一羽柴方
- 西軍一毛利方
- ▲ 堤残在部
- 築堤位置



〈岡山〉憩いの丘デイサービス
センター
水大福に城主をしのぶ

8月19日に喫茶コーナーを開催し、15人の利用者さんが参加しました。この日のお茶請けは、備中高松「清鏡庵」の水大福。いくつかある銘菓の中から、酷暑に涼を呼ぶために選びました。店名の「清鏡」は備中高松城主・清水宗治公の戒名に由来。天正10年(1582年)、織田信長の命を受けた羽柴秀吉が備中高松城攻略の際に水攻めを行なったことは有名です。
抹茶と水大福が目前に出さ

が「低流量酸素投与デバイスの選択、高流量酸素投与デバイスへのエスカレーションについて」、臨床工学科の小林亜理沙さんが「人工呼吸器設定の基礎知識」と題して講義。その後は臨床工学科、特定行為看護師がインストラクターとなり、NPPVマスクのフィッティングを実践形式で行ないました。今後もRST委員会が主となり、継続的に勉強会を行なっていく予定です。
(済生記者 鈴木香純)

れると、利用者さんの会話も清鏡庵の話でもちぎりに。美しい緑の笹にくるまれた白い大福を切ると上品な餡が現れます。水攻めの歴史や、宗治公の辞世の句「浮世をば今こそ渡れもの

〈大阪〉中津病院
大阪人ならできて当然？
お好み焼き返しゲーム

8月27日、院内デイ「そうび」が主催し、介護福祉社が中心となつて入院患者さん向けに病棟で夏祭りを開催しました。
コロナ禍で昨年までは個々で行なっていたのですが、今年

は久しぶりの集合でのレクリエーション。入院患者さん15人が参加しました。
当日は、気合が入った飾り付けでお迎え。患者さんはお面を頭につけてヨーヨー釣りや射的ゲームを楽しみました。そして大阪人ならできて当たり前の好み焼き返しゲームでは、最高記録は1分



ふの名を高松の苔に残して」に思いをはせながら美味しい水大福を味わい、楽しいおやつとの時間となりました。
(副主任 矢尾みずほ)

間でなんと16枚。周りのスタッフも大興奮でした。
最後は、スクリーンで毎年8月に行なわれる淀川花火大会の映像を見て、夏を感じてもらいました。皆さん「楽しかった」と笑顔で病室に帰っていきました。
(済生記者 鈴木亜希乃)

topics

〔埼玉〕川口総合病院 事務部門初のインターン



9月2日から5日間、産学連携に力を注ぐ日本薬科大学から薬学部医療ビジネス薬科学科の3年生3人を迎えて、事務部門では初のインターンシップを実施しました。

3人は各部署に分かれ、人事・総務課や財務・法務課等の管理部門、診療支援課や渉外課等の現場での患者さん対応など多くの業務を体験。最終日には5日間の体験をもとに、「済生会川口総合病院のカイゼン策」と題して1人5分間のプレゼンテーションに挑戦。管理職17人が聴講し、その場で活発な質疑応答が行なわれました。

〔兵庫〕小規模特養なでしこ やっぱり花火はきれいやね



毎年恒例の花火大会を8月23日に当該施設の駐車場で開催し、利用者さん28人、職員7人が参加しました。

学生からは「病院事務職のイメージが深まった」などの感想が。管理職からは「学生視点の提案をぜひ参考にしたい」との意見もあり、職員にとっても学ぶことの多いインターンシップとなりました。

夕飯を済ませた19時ごろ、だんだん空も暗くなった中で花火が始まりました。色とりどりの花火が打ち上がり、クライマックスのナイアガラの滝には火がともった瞬間に歓声が上ががり、記憶に残る花火大会となりました。

「やっぱり花火はきれいやね」「来年も見られたいいな」「花火を見ると昔のことを思い出す」など、今年も利用者さんの笑顔が見られました。楽しい時間を共有できて、夏の思い出の1ページになりました。

（介護主任 木村奈月）

〔大阪〕吹田病院 「掛け合いの解説」で 理解度アップ

8月8日、第6回在宅をともに考える会を開催しました。今回は初めての試みとして「掛け合いSTUDY」を実施。これは高寿園の高田由紀子在宅ケアマネジャーが認知症患者さんのケースを紹介しながら、合間に岡部祥子認知症看護認定看護師が解説をするという進行スタイルです。掛け合いの解説を入れたことで、認知症患者さんへ

の関わり方について理解をより深めることができた」と好評でした。



その後、68人の参加者が同じ職種がほほい構成で8グループに分かれ、情報交換・情報共有を行ないました。在宅医療における交流の場である「ともにコミュニティ」の活動は今後も続けていきます。次回もコラボ企画＆新たなスタイルを考えていきますのでご期待ください。

（ホームケア支援課 主任 加藤尚子）



なでしこ
ファーム

熊本、松山から「愛」をお届けします！

熊本済生会ほほえみ「パン工房ふわり」 熊本市南区内田町3560-1 Tel: 096-223-3428
松山ワークステーション「なでしこ」 愛媛県松山市東山町143番地 Tel: 089-916-6959

焼き菓子のネット通販店「なでしこファーム」

なでしこファームは、済生会の就労継続支援事業所で作ったお菓子を販売するネット通販店。熊本・済生会ほほえみと愛媛・松山ワークステーションが店舗し、済生会のホームページ上で営業中です。商品のクッキーやケーキは、障害者が街のお店に追いつき追い越せと、一生懸命つくりました。どうぞ一度、その思いも一緒に召しあがってみてください。お中元、お歳暮にも最適です。 店主敬白



◆クッキー（左上から時計回りにマーブル、ゴマ、プレーン、クルミ）
♥ギフトボックス（クッキーとパウンドケーキの詰め合わせ）
◆くまドレーズ（くまの形で、手軽に食べられる大きさのマドレーズ）
◆元祖クッキー（片栗粉を使ったサクサクとした歯ごたえが人気）

済生会のトップページからアクセス!!
<https://www.saiseikai.or.jp>

ホームページには、他にも魅力いっぱい商品が。工房で、お店で活躍するスタッフの様子も。ぜひご覧ください。





〔福岡〕大牟田病院
リアルな職場空間を再現
没入型研修を体験

9月7・8日の2日間、マイナビ研修サービスの立花ちづこさんを講師に招いて当院初の管理者研修会を開催し、各部署から管理者19人が参加しました。今回の研修はマイナビが提供する新たな研修スタイルによるもので、映像などさまざまな演出によりリアルな職場空間を再現して行なわれました。部署の



抱える課題を捉え、個人・部署の目標設定・問題解決から若手職員育成まで、没入する感覚で取り組むことができました。また、筆者自身の新しい気づきや課題を発見することもでき、有意義な研修でした。この経験を自部署に持ち帰り、業務の在り方、課題の捉え方、スタッフとの関係づくりなど、今後の指導・育成に活用していきます。

（済生記者 松岡 健）

〔岩手〕北上済生会病院
国境なき医師団の
手術室看護師を迎えて

7月30日、国境なき医師団・手術室看護師の白川優子さんを講師に迎えて、院内で研修会を



開催しました。職員や関係者、近隣の看護学生ら約100人が、インフラや病院も壊滅状態の中、紛争地の苛酷な現場での医療活動についての話に聞き入りました。「死」は特別なことのように感じますが、国境なき医師団の活動地の多くでは、常に死と向き合わなければなりません。「目の前の人を、すぐに助けられない」という活動の難しさ、情熱だけではつぶされてしまうほどの現実の厳しさを痛感するとともに、日本がいかに平和な国であるかを再認識させられました。「戦争は絶対にあってはならない」――最後にそう強く語った白川さんの凛とした姿がとても



印象的でした。
（済生記者 掛川千恵子）
〔静岡〕川奈臨海学園
竹居名誉施設長に
県知事感謝状

静岡県社会福祉審議会委員を務めた当園の竹居昭子名誉施設長（前施設長）に、このほど静



岡県知事から感謝状の贈呈がありました。静岡県児童養護施設協議会からの推薦を受けて2期6年の間委員を務め、静岡県の社会福祉の発展のため尽力した功績によるものです。

9月3日、静岡県健康福祉部

こども未来局こども家庭課の村松規雄課長と増田有華主事が当園を訪れ、贈呈式が行なわれました。贈呈式の後、高橋麻紀施設長が当園について説明し、ユニット化した施設を案内しました。小規模化・家庭的養育の利点、課題や現場の声を伝え、理解を深めていただくよい機会となりました。

（済生記者 鈴木 一大）

〔大阪〕吹田病院
将来は外科医になる！
BJJセミナーに中高生35人

ジョンソン・エンド・ジョンソン共催、石黒メデイカルシステム協力のもと、8月3日に「第



7回ブラック・ジャックセミナー」を当院で開催しました。当日は中学・高校生合わせて35人が参加。まずは手術室で手術着に着替え、手洗い・手術縫合・超音波メス・内視鏡トレーニング・自動吻合器を体験。最初は緊張していましたが、初めて見る本物の設備や機器に触れると「テーマパークよりも楽しい」との声が上がり、医師に手術時間を質問する余裕も出てきました。

（総務課 中川祐紀）

〔滋賀〕守山市民病院
驚きや発見があった
高校生の一日看護体験

8月2日と5日の両日、看護職を目指す高校生計11人が来院し、一日看護体験を行いました。

午前中は病院全体の説明や見学などを行ない、午後から二つの病棟に分かれて看護師と一緒に実際の業務の見学、とりま茶



の試飲、ストレッチャーからベッドへの移乗などを体験しました。

スタッフが患者さんに声をかける様子や、セラピストとともに懸命にリハビリに取り組む患者さんの姿など、病院では当たり前の光景も高校生には驚きや発見があったようです。

参加者は「いろんなことを知れてよかったです」「勉強になった」と振り返りました。患者さんからも「勉強がんばってね」「良い看護師になりな」と激励され、笑顔で一日体験を終えました。

（済生記者 中嶋元香）

里親制度を広めたい
商業施設で相談会

〔静岡〕川奈臨海学園

当園では市内のショッピングセンターで月に一度「里親相談会」を開催し、地域の皆さんに里親について関心を持っていただくための啓発活動を行なっています。

社会的養護を必要とする児童を担う受け皿として、当園のような児童養護施設の他に里親家庭があります。里親とは、それぞれの事情で親と暮らすことのできない子どもたちを、自分の家庭に迎え入れて養育する人のことをいいます。



9月12日の相談会には5人の来場者がありました。10月は里親月間として、10日と15日に相談会を開催します。子どもたちを支える制度があること、子どもたちの居場所が必要なことをたくさんの人に知ってもらいたいです。

（済生記者 鈴木一大）

福井県済生会病院

一日看護体験に35人

7月31日、県内の高校生を対象に「一日看護体験入学」を実施し、35人が当院の看護現場を体験しました。



協和枝副院長兼看護部長による当院の概要説明に始まり、午前中は病棟での体験実習。清拭やおむつ交換、体位交換、手浴、足浴、車椅子操作などを行ない、患者さんとのコミュニケーションを通じて看護の大切さを体験しました。午後は救急蘇生や感染対策（手洗い）について学び、医療の重要なスキルを身につける機会となりました。

体験終了後は、現役看護師さんとの意見交換が行なわれ、当日の体験についての理解をさらに深めました。参加した高校生からは「将来の進路選択に役立つ」という声もあり、看護の道を志すきっかけとなる貴重な体験になったのではないかと

思います。

（総務・企画課 山村健太）

〔大阪〕千里病院

研修医が豚の腸管で縫合にチャレンジ

9月12日、消化器外科医指導のもと、臨床研修医7人が腸管縫合のコアレクチャーを受けました。本レクチャーでは豚の腸管が使用され、実際の症例に近い環境で縫合が行なわれました。「針をどこに通し、どこに出す



かを考えながら縫うことが楽しかった」と研修医の一人は語ります。特に、正確な力加減やミリ単位の間隔で縫うことに気を配ったそうです。

指導医からは運針のコツや注



意点、具体的な助言と「技術向上には自主練習が重要」とのアドバイスが送られました。このような実践的な研修と直接的なフィードバックは、彼らの技術向上に大きく寄与したことでしよう。研修医たちも消化器外科の専門医から直接指導を受けられたことに感謝の意を表していました。

（済生記者 二階堂潤江）

〔兵庫〕特養ふじの里
盛夏を乗り切るために!!
スイカを食べる会

7月31日、当施設西館でおやつ時間に「スイカを食べる会」を開催し、利用者さん50人と職員12人が参加しました。

お取り寄せした長野県産の特スイカがフロアに入ってくる



と、目を真ん丸にして驚く利用者さんたち。せっかくなので、急速スイカ割りを行なうことにしました。たくさん笑って声も出しました後は、待ちに待ったご賞味タイム。糖度12度以上だというスイカを切るとフロア中に甘い香りが広がりました。食べてみると、普段食事が進まない人もお代わりをするほどおいしいスイカでした。

（西館ユニットリーダー 山口貴美子）

大分県地域生活定着
支援センター

氾濫危険情報発令!
暴風雨の中、避難誘導

8月29日、大分市内は台風10号の影響で大分川の氾濫危険情報が発令され、流域に暮らす支援対象者Aさんの安全が脅かされる状況となりました。

独り住まいの高齢者で身体障害のあるAさん。河川ライブ



カメラの情報から徐々に水位が上がる様子が分かり、危険が差し迫ってきたため、当センターで避難支援を行なうことに。暴風雨の中、無事に指定避難所に避難誘導することができ、避難所でもAさんが安心して過ごせるように対応しました。幸い、避難した後に台風の勢いが弱まり、翌朝にはAさんは自宅に戻ることができました。

当センターの支援対象者の多くが災害弱者となる恐れがあり、改めて日ごろの備えの大切さを痛感させられました。

（相談員 黒木晃平）

〔新潟〕特養長和園
スイカ、オレンジ、リンゴ！
フルーツバイキングを堪能

8月13日、当園の全ての利用者さん（短期入所者を含む



120人）を対象に「フルーツバイキング」を行いました。メニューはスイカ、オレンジ、リンゴなどの果物と、リンゴとスイカの手作りミックスジュース。職員が果物をカットイングし、きれいに盛り付け、見た目にもとても華やかな出来栄となりました。

フルーツバイキングはおいしい果物を堪能するだけでなく、好きなものを自由に選ぶ楽しさがあり、とても喜ばれます。「きれいな果物だね」「お代わりが欲しいわ」という声があちこちから上がり大好評でした。

普段何気なく食べている果物も、きれいに盛り付けると華やかさとおいしさが際立つもの。利用者さんの笑顔もまたあふれていました。

（済生記者 布施優子）



〔静岡〕特養小鹿なでしこ苑
祝・傘寿&米寿

9月14日に敬老会を開催しました。今年の式典は午前中のみで、傘寿（80歳）と米寿（88歳）を迎えた入居者さん7人とその家族6人が参加しました。

記念品を贈呈されると「皆さまのおかげで今日まで元気に過ごしてこられました」と涙する入居者さんもいました。

式典後はお楽しみ会で、出し物はフルーツとピアノのユニットによる演奏と、静岡県立大学のジャグリングサークルによるパフォーマンス。そして最後はかわいらしい衣装を着た職員に



〔東京〕中央病院
新生児蘇生法講習会
院内開催が可能に

8月3日、新生児蘇生法（NCP R）講習会を開催しました。同講習は日本産科・新生児医学会が主催していますが、小児科の吉田沙智恵医師がイン



ストラクター資格を取得し、今年4月から院内で実施できるようになりました。

当日は病棟看護師2人と手術室看護師1人が参加。講義に続いて、新生児のマネキン人形を使用した実習により実践的なスキルを学びました。講習後には認定書が発行されます（5年ごとに更新が必要）。

院内での講習会開催が可能となり、スタッフが継続的に最新の知識と技術を習得できることは大きな強みです。今後は外部の受講者も受け入れて講習会を開催する予定です。

（済生記者 鈴木香純）

福井県済生会病院

お父さんやお母さんは
すごいところで働いている

職員の子ども（小学生）を対象とした「サマースクール2024」を7月24日に開催し、



28人の元気な子どもたちが親の職場見学や仕事体験を通じて医療の世界に触れました。

午前中はBLS（一次救命処置）や正しい手洗いの方法、認知症について学習。午後は腹

1の概要やドクターカーの運用方法などを解説。ブースでは同乗する際に持ち込む医療バッグの中身を公開しました。救急現場のシミュレーション訓練では、重症外傷でドクターカーの要請があった際の現場到着から病院搬送に至る一連の流れを、消防と一緒に行ないました。

参加した看護師は「たくさんの方が来場しうれしかったが、医療関係のことを分かりやすく伝える難しさを実感した」と話しました。

（済生記者 蓬田絵里子）



よるダンスで閉会しました。

来年は今年よりも多くの入居者さんに参加してもらい、一緒にお祝いできればと思います。

（済生記者 石田遼祐）

〔埼玉〕加須病院
救急フェスタで
WS型ドクターカーを広報

9月14日、久喜市のアリオ鷺宮店で開催された救急フェスタ（埼玉東部消防組合主催）で、当院看護師2人がワークステーション型ドクターカーの広報を行ないました。



は思わなかった。これなら入院してもいい」と冗談交じりに笑顔を見せる子も。
体験終了後は「お父さんやお母さんがすごいところで働いていることが分かった」「放射線で中身が透けて見えるのがすごかった。とっても楽しかった」と、満面の笑みで感想を口にしていました。

（済生記者 田中一弥）



腔鏡や内視鏡などのシミュレーター、リハビリ・放射線技師・臨床検査技師・薬剤師・看護師の仕事など、さまざまな体験を行ないました。

お昼には病院食を食べ、「病院のご飯がこんなにおいしいと



〔大阪〕吹田病院
周産期病棟改修のCF終了
目標達成で工事着工

周産期病棟改修のために取り組んできた90日間のクラウドファンディングが8月末日をもって終了。目標額2000万円を上回る2732万円のご支援をいただきました。支援サイトやエントランスに設けた特別ブースには温かい言葉や支援が寄せられ、地域の皆



さんとの強い絆を再認識することができました。また、進捗は逐一院内で共有し、職員のモチベーション向上にもつながったと担当者はいいます。今後も地域に寄り添い、より良い医療サービスを提供し愛される病院を目指します。

9月2日、「安心・安全・快適な出産環境」を提供するため周産期病棟の改修工事が始まりました。

（済生記者 橋本 茜）

〔大阪〕中津病院
災害備蓄用食料品
100ケース分を寄贈

9月12日、なでしこプランの活動として、災害備蓄用食料品をふいどばんくOSAKAへ寄贈しました。

今回寄贈したのは、開封後すぐに食べられるご飯60ケース、ライスクッキー40ケースの計100ケース。これらの食料品は子ども食堂や子育て家庭施設等に届けられる予定です。



ふいどばんくOSAKAの小林道弘渉外担当理事は「食料の加熱が難しいご家庭もあり、すぐに食べられる食品は需要が多い。しっかりと活用させていただく」と話しました。志手淳也院長は「今後も引き続き、連携協力していきたい」と継続的に活動を行なっていくことを伝えました。

（管理栄養士 松本裕一郎）

〔大阪〕野江病院

看護師の実際の仕事を
体と心で体験

一日看護体験を8月23日に実施し、大阪信愛学院高等学校看護医療コースの学生36人が参加しました。

当日は、看護師と同じユニフォームを着用し、病棟で看護師と共に行動して看護ケア等を見学してもらいました。実際に看護師がどのようなことを行っているのかを知り、体験することで感じるものがそれぞれあったようです。

体験終了後には「看護師が実際にこなしている仕事を自分の体と心で体験できて本当によかった」「看護師という仕事は、

どんなときでも患者さんが一番に思っ取り組まなければならぬと分かった」などのコメントが。医療の現場を肌身で感じている様子がうかがえました。

（副看護部長 橋口絹代）

〔愛媛〕今治老健希望の園

BCP研修・
浸水想定訓練で
災害に対する意識向上

8月23日、職員41人が参加してBCP研修と浸水を想定した訓練を実施しました。

当園は、ハザードマップ上の高潮・洪水による浸水想定区域に位置しています。研修では気象情報や災害状況の収集に便利なアプリを紹介し、浸水対策として止水板と水のうを入口や裏口に設置する訓練を行ないました。実際に設置してみても「こうしたらどうだろうか?」「この方が効果的じゃないか?」「このと活発な討議が行なわれ、非常に有意義な訓練になりました。

今回の研修・訓練を通じて、浸水が発生しそうな場合、どのようなように迅速に対応するべきかを再確認することができ、職員の災害に対する意識も高める



ことができました。
（済生記者 濱本佳代）

〔新潟〕三条訪問看護
ステーション

演奏会で歌って、
踊って!

当ステーションは毎年三条市の委託を受けて家族介護支援事業を行なっています。今年度は7月27日、隣接の特養長和園を会場に、音楽イベントを開催しました。

出演した「音楽サークルまつほっくり」は、知的障害のあるメンバーが有志で活動し、楽器の演奏・歌・ダンスを地



域のイベントで披露しています。当日の参加者は25人と過去最多。介護する人・される人・音楽好きな地域の人々が演奏に合わせて一緒に歌ったり踊ったりして、笑顔あふれる時間になりました。

（副管理者 小杉江利子）

〈鳥取〉介護医療院
なでしこ境港

介護医療院って
どんなところ？

8月29日、介護医療院なでしこ境港で介護教室を開催しました。

当日は介護支援専門員の崎田浩明さんが講師を担当。「介護医療院ってどんなところ？」と題し、介護医療院、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護付き有料老人ホームの違いを説明しました。当施設の特長として、医療と介護を併せ持ち、24時間看護体制が整っていることが挙げられます。



参加した5人からは「他の施設との違いがよく分かった」「看取りの対応について分かってよかった」などの感想が寄せられました。



した。

介護教室は今後も隔月で、10月は「移乗介助を体験しよう」、12月は「経管栄養ってなに？」、来年2月は「自宅でできる感染対策」をテーマに開催を予定しています。

〈境港総合病院 済生記者 亀尾美子〉

〈滋賀〉守山市民病院

初の災害机上訓練
BCPへの理解が深まる

救急・災害対策委員会による災害机上訓練を7月24日に実施し、委員9人を含む計50人が参加しました。

「午前11時に大津市を震源とする震度6弱の地震が発生、停電した後、自家発電が作動、水道の各所に漏水発生、エレベーターは停止している」というシナリオのもと、BCP（事業継続計画）に基づいた各部署と病院全



体の対応、課題や問題点などをグループごとにディスカッションしました。

初めての机上訓練でしたが、どのグループも積極的に意見を出し合う中でBCPへの理解が深まりました。「継続して実施してほしい」「今後も参加したい」という声に、災害対応への意識の高まりを感じました。委員会では今回出た課題などを元にBCPを改善し、職員の意識向上への取り組みを続けていきます。

〈済生記者 中嶋元香〉



クラウドファンディング終了！
多くのご支援本当にありがとうございます

当院の薬剤師や管理栄養士計3人が、肝炎に関する相談者のさまざまな疑問や不安の解消に努めました。

今後も、平松活志新センター長のもと、県内唯一の肝炎診療連携拠点病院として、さらに幅広い取り組みを展開していきます。

〈総務・企画課 山村健太〉



滋賀県病院

目標大きく上回り
CF達成！
ドクターカー更新へ

「10年間の献身が生んだ成果…次世代のドクターカーへの更新」と題し、6月11日から挑戦していたクラウドファンディングが、9月9日をもって終了しました。

〈神奈川〉若草病院

院内販売で地域に貢献

9月17日、NPO法人「海の会」が運営する横浜市地域活動支援センター「すべーす海」のメンバーが来院し、院内で出店販売を行いました。

先だって横浜市から、「就労支援事業所や地域活動支援センター」等で制作した商品の販売場所・機会が限られているため、若草病院内に場所を提供しても



「世界・日本肝炎デー」（7月28日）に合わせ、7月22日から28日の期間中、当院正面玄関に特設スペースを設けて肝炎啓発のパネル展示を行いました。

また、24日には来場者を対象に無料の肝炎ウイルス検査を実施。34人が検査を希望しました。

福井県済生会病院
肝炎デーに合わせ
無料で検査と相談会

「世界・日本肝炎デー」（7月28日）に合わせ、7月22日から28日の期間中、当院正面玄関に特設スペースを設けて肝炎啓発のパネル展示を行いました。

また、24日には来場者を対象に無料の肝炎ウイルス検査を実施。34人が検査を希望しました。



が、無料の肝炎ウイルス検査を受けられるのは一生に一度のみ。検査履歴を確認し、未検査の13人が検査を受けました。

さらに、今年度初の取り組みとして、肝炎医療コーディネーターによる無料相談会を開催

「当日は手作りのクッキーやキールホルダー、布ぞうりなどが出品され、職員や患者さんは興味深そうに手に取り、購入する人もいました。」

〈済生記者 長澤伸哉〉

topics



(済生記者 鈴木香純)

リンク対決が行なわれ、景品を懸けた熱い戦いを繰り広げました。

新人職員の自己紹介の際には、初々しい挨拶に先輩方の温かい声かけが飛び交うシーンも。アットホームな雰囲気の中、散会しました。

同会は「薬剤部・医療技術部活性化プロジェクト」が主催。これを機に科を越えた円滑な業務推進が加速することを期待しています。



供養祭、今年も弔辞集「想い出」発行

当施設と小規模特養などでしこ神戸では8月8日、東館ホールで供養祭を開催し、昨年7月から今年6月までに逝去された36人の故人を偲びました。今年度は、コロナ禍以降初めて故人のご家族もお呼びし、3家族4人が参加しました。

故人の当施設での生活を振り返る弔辞集「想い出」を発行しました。これは「故人とご家族、職員で共有できる思い出を作りたい」という職員の発案により制作を始めたもの。供養祭終了後、別席にて故人のご家族に配布しました。

ご家族からは「初盆を迎えた実感が湧かず、まだ施設に居るような気がする」「コロナ禍の面会制限がある中、施設で看取りができたことに感謝したい」などの声が聞かれました。

(相談課長 南本貴史)

三重 明和病院

食糧・日用品 1030点を寄付

当院では、なでしこプランの一つとして食糧支援事業を実施しています。

第8回の今回は、新たな取り組みとして食糧に加え日用品を職員から募集。7月10日から31日の間に当院備蓄食も含め計1030点が集まり、8月7日にフードバンク松阪、9日に



フードバンク伊勢に届けました。これらの物品は、ひとり親家庭やうつ病を患った若年者、高齢者、ヤングケアラー等幅広い世帯に届けられる予定です。フードバンクの担当者からは「食糧だけでなく日用品もとても助かる」「夏休みで給食がなくて困っている家庭の助けになる」という声をいただきました。

以前は企業からの食糧提供も多数あったそうですが、企業も経営が厳しい状況で、支援される食糧が不足しているとのこと。済生会の使命として、今後も継続した支援を行なっていききたいと思えます。

(医療社会事業課 小宮明穂)



〈山口〉貴船福祉ケアセンター 皆と一緒に楽しい夏祭り

8月2日、センター内で夏まつりを行いました。

利用者さんに、季節を感じ、楽しい時間を過ごしてほしいと思いい、日頃の感謝も込めて趣向を凝らした催しを企画。職員が仕事の合間をぬって飾り付けやプレゼントを用意しました。

催しはユニット単位で行ない、施設全体で100人近い利用者さんが参加。1時間ほどの短い時間でしたが、懐かしい歌を皆で歌ったり、ゲームに興じたり、あつという間に時間は過ぎていきました。

皆で集まって同じ時間を過ごす利用者さんの楽しそうな笑顔が印象的でした。年齢に関係なく、皆と一緒に感動したり物事を行なったりすることの大切さを改めて感じる貴重な時間となりました。

(特養貴船園 介護職員 高田雅美)



〈東京〉中央病院

薬剤部・医療技術部の垣根越えた100人の集い

薬剤部・医療技術部の新人職員歓迎会を、7月31日、5年ぶりに開催し、新人職員25人を含む100人が部門・科の垣根を越えて交流しました。

会にはハビリテーション技術科・松本徹技師長のギター弾き



語りに始まり、海老原全院長の挨拶に続き、原田裕久副院長が乾杯の音頭をとりました。座が和んだころ、経営幹部と新人職員が7チームに分かれて利きド

福井県済生会病院

手作りのアイテムで
笑顔の縁日ごっこ

院内保育所「ぼっかぼか園」では、8月3・4日の2日間、計30組の親子が園内遊戯室で「縁日ごっこ」を楽しみました。甚平姿などで参加した子どもたち。お祭り会場に様変わりした保育室にそわそわしながらも、魚つりや輪投げではお父さんや



お母さんが見守る中、「つれたー」と大きな魚を釣り上げたり、輪を命中させたりしていました。また、太鼓コーナーではにぎやかな音を響かせ、食べ物屋さんでは牛乳パックによる手作りのかき氷体験機に触れるなど、縁日気分を存分に味わいました。最後は、皆でアサガオのうちわを持ち記念撮影。そして、くじの景品、毛糸や絵の具などで作ったやきそば・りんご飴など、



たくさんのお土産を笑顔と一緒に持ち帰りました。
(保育士 春田かおり)

〔滋賀〕 特養淡海荘
高齢者虐待防止研修で
理想の施設を考える

7月から8月にかけて、淡海荘グループ全職員を対象に「高齢者虐待防止研修」を実施し、76人が受講しました。同研修は今年度の介護報酬改定により義務化されたもので、全職員に受講してもらったため研修日を4日間設けて実施。葉山地域包括支援センターの職員が講師を担当しました。研修では高齢者虐待セルフチェックリストのフィードバック



や、グループワークの時間もあり、他部署の職員と交流を深める場にもなりました。最後に「理想の淡海荘」について各自記入したものを、講師がカテゴリー別に分け、職員通用口に掲出。「利用者さんと職員の笑顔があふれる職場」など職員のみさまざまな思いが記載されており、実りある研修となりました。
(済生記者 永原 聡)



〔茨城〕 水戸済生会総合病院
未来の医師認定？
イオンで腹腔鏡手術体験

8月12日、イオンモール水戸内原の3階イベントスペースで「夏休み子ども医療体験〜腹腔鏡をつかってみよう〜」を開催。地域の子どもたち（小学4年生〜中学3年生）18人が腹腔鏡シミュレーターを使った外科手術を体験しました。



イベントを企画したのは、消化器センター長の丸山常彦医師「子どもたちの輝いた目が印象的でした。外科医や看護師とのコミュニケーションや体験を

通して、将来外科医になりたい、医療に携わりたいという子どもを増やし、日本の医療を支える人材を育てることに貢献できればと考えています」と未来の医師たちへの期待を語りました。手術体験を終えた子どもたちには「未来の医師認定証」が授与されました。
(済生記者 今野正俊)

新潟病院
看護職を目指す決意新たに
県内の高校生を対象とした
「高校生一日看護体験」
(新潟県看護協会主催)を7月31日
に当院で開催し、28
人が参加しました。

本間照院長の挨拶の後、済生会の理念や看護部の紹介を行ない、2組に分かれて院内見学を実施。産婦人科病棟では普段入ることのできない陣痛室や分娩室にも案内しました。4グループに分かれての座談会は、実際に働く2〜3年目



の看護師と師長を交えての質疑応答の場。「看護師を目指すたきっかけは」「看護師をしていて良かったことは」など多くの質問に答える中で、看護師あるあるが伝えられたと思います。終了後は「今回の体験を通して看護師を目指すかと改めて決心した」と話す参加者も。高校生にとっても私たちにとても、とても有意義な1日となりました。
(事務局 海老菜穂子・長島綾子)

〔滋賀〕老健ケアポート栗東
 応援する人も全力で！
 皆が楽しめる敬老会に

敬老の日を前に9月11日、入所者さん100人参加のもとで敬老会を開催しました。最高齢は105歳の女性でした。



お祝いの後、今年に入所者さんに主体的に参加してもらえ、お楽しみ会を企画。この日のために、司会、歌を歌う人、歌に合わせて応援する人に分かれて準備を進めました。司会と歌う人は練習を重ね、応援する人も応援グッズをちぎり絵などで作りました。

本番当日は緊張した面持ちでしたが、皆さん見事に大役を果たしました。主役ではない人もリズムに合わせて応援グッズを揺らして歌を口ずさみ、楽しい会となりました。普段の生活では見られない姿に、職員も大いに感激しました。

(作業療法士 本間めぐみ)

〔埼玉〕鴻巣医療福祉センター

「自然にできてすごいなあ」
 中学生3人が職場体験

9月4〜6日、鴻巣市の中学生3人が、当センターの老健ここのとりに「社会体験チャレンジ」に来てくれました。

デイケアサービスが希望で、送迎・血圧測定・レクリエーション・お茶の提供・昼食の配膳などを体験。また、作業療法士の森山彰さんから認知症について

て講義を受け、被験者となって長谷川式認知症スケールを体験しました。

屋外での車椅子体験では、平坦な道が少なく「想像していたよりも難しい」と悪戦苦闘していました。最終日は利用者さんと折り紙のレクリエーション。

一緒に季節の花を折り、お土産に持って帰っていただきました。参加者の一人は「利用者さんとの会話が一番難しかった。職員の皆さんは自然にできていてすごいなあ」と感じたそうです。3日間お疲れ様でした。

(鴻巣病院 総務課 中島涼子)



笑いを通じて元気に！
 早大寄席演芸研の慰問公演

山形済生病院

8月28日、早稲田大学学生サークル「早稲田寄席演芸研究会」による慰問公演が当院南館で開催されました。

同研究会は、大学の夏休み期間中に全国各地の病院を

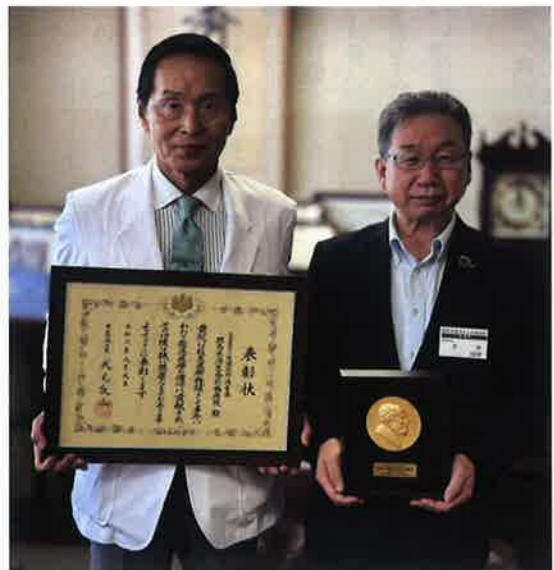


地域の救急医療に貢献
 厚生労働大臣表彰

9月9日の救急の日、当院は令和6年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受けました。

東京都千代田区の都道府県会館で行なわれた授与式には、細内康男院長の代理として筆者が出席。表彰された11医療機関の総代として、濱地雅一厚生労働副大臣から表彰状と記念の盾を受け取りました。(愛媛)

西条病院も表彰され、授与式には石井博院長が参加。式終了後には



〔群馬〕前橋病院

記念撮影が行なわれました。

当院は、昨年度実施したクラウドファンディングの寄付金の一部を活用して、救急処置室の改修工事を本年7〜8月にかけて実施。新しく、広く、使い勝手がよくなった救急処置室を中心に、これからも地域の救急医療に貢献していきます。

(管理局長 吉田 誠)

山口総合病院

「医療安全標語2024」
最優秀賞決定

「患者誤認に対する医療安全標語」を5月22日から6月7日にかけて募集しました。患者誤認に関する意識を高める目的で、当院セーフティマネジメントチームが企画したものです。

最優秀賞は7月3日に決定。今年度は応募された217作品の中から、患者サポートセンター・右田智香看護師の作品「確認は声出し・指さし 全集中」が選ばれました。



安全な医療を提供するためには、医療の質の向上を目指し、安全管理に関する体制を整備することが必要です。そのため、当院では組織的な事故防止対策に重点をおいています。医療従事者が職種の隔たりなくコミュニケーション・シミュレーションをとり、真の意味でのチーム医療

を実現することが事故防止につながると思え、職場環境の改善に努めます。
(医療安全管理室長 池部麻美)

〔福岡〕大牟田病院

健康イベントで
骨盤底筋体操を紹介

9月7日に大牟田市健康づくり市民大会、8日に大牟田みんなの健康展が大牟田文化会館で開催され、約1500人が来場しました。両日のふれあい看護とリハビリのコーナーに、当院から4人の看護師が参加しました。



ふれあい看護コーナーでは血

圧測定と健康相談を実施。リハビリコーナーでは「骨盤底筋体操」をテーマに、必要な知識・気づきを促す講義を行ない、体操を実践しました。

「昨今、排尿障害に悩む人が増えています。尿漏れ防止・改善に推奨されている骨盤底筋体操に興味がある人は多いようで、熱心にメモを取る皆さんからは体操の習得への高い意欲が感じられました。」
(医療安全対策室 内野晴美)

奈良病院

地域の大型イベントで
体調管理をサポート

当院看護部なでしこ会(看護師7人、看護補助者1人)は、8月10日、地区最大のイベント「大宮まつり」に参加しました。主催者側の要請に応えたもので、当日は血圧・握力測定や健康相談を担当。炎天下、午前・午後合わせて40人強の体調管理をサポートしました。

当日は、地域の皆さんとお話することができ、過去に当院にかかった方やそのご家族から直接感謝の言葉をいただく場面も。また、当会もお手伝いした訪問



看護ステーション野の花のクラフト作りが大盛況で、小さな子どもから大人まで、かわいらしい作品を作っていました。参加したスタッフからは「とても楽しかったです」「良い経験になりました」との感想がありました。
(看護部なでしこ会 政道和代)

大雑報

身の回りで起きた、さまざまなことを楽しく報告するコーナーです。職場の話でも、家庭の話でも、休日の話でも。ご報告ください

ホームページリニューアル
職員アンケートで白熱!

〔岩手〕北上済生会病院は来年、移転新築後5周年の節目を迎えます。それに伴い、ホームページの全面リニューアルを企画中です。

情報をより探しやすい、見やすく、誰でも利用しやすく、何度でも訪れたいホームページを目指して、コンテンツやデザインを刷新したコンセプトシートを2案作成。職員に選んでもらおうと8月6〜8日の3日間、アンケートを行いました。



「こっちの方が見やすいよね!」など、予想以上の盛り上がりでした! アンケートの結果はいかに...職員に愛されるホームページとなりましょう!
(岩手・北上済生会病院 清生記者 掛川千恵子)
★皆で楽しく意見を出し合う機会となり、ホームページへの関心度もアップできて一石二鳥ですね。
(メディカル・リリーフ 坂本陽子)

祝・100歳新記録!

記録的猛暑のさなか、(大阪)軽費老人ホームケアハウスつじ荘でも新記録を達成!なんと、当荘3人目の100歳さんが誕生しました。7月に100歳を迎えた稲原静子さんに長寿の秘訣を聞くと...「人さまにご迷惑をかけないように自分がかんばっています」とのこと。素晴らしい心がけ。私たちも見習わなくては。
優しい息子さんと仲良しの入居者さんに囲まれ、ちよつと恥ずかしそう。でも、どこか誇らしげに見えるお顔には「大正・昭和・平成・令和」をしっかりと歩んできた100年の重みを感じられました。



息子さんと仲良しの入居者さんと一緒に記念撮影

記念に、当荘の3人の100歳さんと一緒に並んで、100歳のポスターで写真撮影(P32掲載)。皆さん大変お元気で、シャンシャン歩くので周りがビックリしてしまうほどです。これからもどんどん記録を更新して、いつまでも元気でいてください。
(大阪・軽費老人ホームケアハウスつじ荘 生活相談員 安達麻由子)

★新記録達成!!おめでとうございませう。これからも元氣な100歳さんの誕生を期待しています。
(本部広報課 大嶋 薫)

市役所で「ぶよぶよ」勝負!

8月30日、横浜市が主催するeスポーツ大会「戦参」SENZAN



1回戦は難なく突破したものの、2回戦に当たったのは昨年の優勝チーム。さすがの実力差に圧倒されて完敗でした...。しかし今回は、

その昨年の優勝チームですら4位という、強者ぞろいの白熱した大会で

「第2回が横浜市役所で開催!ぶよぶよeスポーツの企業・学校対抗戦に、神奈川県病院として初出場しました。
ぶよぶよはご存知の方も多い国民的パズルゲームです。対抗戦は横浜市内16の企業・学校による3人1組のチーム戦でのトーナメント方式。当院は先鋒に臨床検査技師の園田敏也さん、中堅に事務の佐久間勇太さ

した。また来年、頑張ります!!

(神奈川県病院 済生記者 小山友輝)

★大会の様子を見て、どこにおよぶよを置くかの判断が早く、びっくりしました。来年こそは優勝、応援しています! (本部広報課 杉山菜央)

川口・夏の風物詩

川口市の夏の一大イベントといえ「たたら祭り」。8月24日、佐藤雅彦病院長や名古屋恵子看護部長、清水吉則事務部長をはじめ、職員、看護専門学校生徒ら総勢68人で参加しました。

「たたら」とは、製鉄の時に足で踏んで風を吹き込む「大型のふいご」のこと。川口は鑄物の町として栄え、当時実際に踏んでいたたたらは川口市の郷土資料館で見ることができま。たたらを踏む作業はかなりの労



力が必要とし、その辛さを紛らわすために「たたら節(歌)」を歌い始めたんだとか。

沿道からは「済生会病院だ! 診てもらっています」などのお声かけも。ほどよい風が吹く中、皆で楽しく踊ることができました。

(埼玉・川口総合病院 済生記者 原 衣里奈)

★「みつつよつは鬼も泣く 泣く」もののけ姫の一場面。目にもあざやかな法被が辛さを吹き飛ばしそうです。

(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

夏の終わりの夢花火

8月24日夕刻。職員とその家族を招き、(大阪)老健ライフポート泉南



の目の前の海岸で行なわれた「泉州夢花火」を観望しました。

当日は、猛暑に負けずに300人以上が参加。BGMとともに始まったドローンショーで盛り上がり、大迫力の尺玉花火が上がるたびにワーンと大きな歓声が上がっていました。

花火会場は混雑していましたが、こちらの会場(当施設の屋上)では特等席でゆったりと花火を鑑賞することができました。夏の終わりに皆で楽しい思い出ができました。

(大阪・老健ライフポート泉南 済生記者 朝井 隆)

★本当に目の前で迫力満載ですね! 目と耳から感じる夏の風物詩、私も観に行きたいなあ……。

(本部広報課 杉山菜央)

皆さんも有効に活用してください。(広島・老健はまな荘 済生記者 佐藤 聡)

(本部広報課 河内淳史)

事務職と審判の「二刀流」!

9月2~8日に台湾で開催された第13回BFA U-18アジア選手権に、(佐賀)唐津病院・事務職員の松本京子さんが国際審判員として参加しました。

この大会はアジア野球連盟が主催し、18歳以下の代表選手で競われる国際大会。8カ国が参加し、日本は今大会で銀メダルを獲得しました。

松本さんは2009年に佐賀県公式野球審判協会に登録後、2020年に全日本野球協会の国際審判員資格を取得。これまで国際大会に6回



も参加しています。自身もソフトボールで国体やインターハイに何度も出場するほどの実力者です。

やりがいや聞くと言葉が通じにくい中でも互いを尊重・信頼することでの一つのチームになれる。国際大会での経験は私の財産」とのこと。ワールドワイドに活躍する松本さんをぜひ応援してください!

(佐賀・唐津病院 済生記者 相島蘭香)

★詳細は唐津病院のインスタで! 松本さんは開催地・台湾チームの試合で球審を務めています。すごい!

(本部広報課 河内淳史)

暑さに負けず自然探!

9月上旬——残暑にも負けず、汗をかきながら存分に外遊びを楽しむ



子どもたち。虫探しや草花、木の実など自然探しに夢中です。

2歳児クラスでは、たくさんの子がさまざまな種類の虫を触れるように。トンボやカエルなどを捕まえて友だちと一緒に観察したり、木の実を集めて、まますことの中で、お料理にトッピングしたり、思い思いに遊びを展開していく様子が見られます。

3・4・5歳児クラスでは、虫をただ捕まえるだけではなく、生活しやすいような環境を虫かごの中に

次号予告

済生 No.1145 [令和6年11月号]

済生会の不易流行論 (194) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 岡田結実

口福にっぽん (86)

てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

ヒューマンリソシア(株) 14 ページ

済生DX化に向けて

機関誌「済生」DX化の一環として、トピックスの投稿をWebブラウザ上で行なうシステムを導入することになるそうです。先日、モニターとして実際にシステムを使ってみる機会がありました。

システムには、イベント等の名称や開催日時、行なった内容などを項目に沿って入力していくとAIが記事を作成し、情報が足りないと教えてくれるという機能も。活用するこ



とで記事の内容をブラッシュアップできるので、記事を書くのが苦手な済生記者にとっても強い味方になってくれることでしょう。使い方によっては、各施設で作成している広報誌にも活用できるのではないでしょうか。年内にはお披露目になるように聞いていますので、



地域の皆様とともに 乳がんに向かい



社会福祉法人
恩賜財団
済生会有田病院

目標金額 **750万円** 2024年 **8月26日** (月) から **10月31日** (木) まで

済生会有田病院がクラウドファンディング挑戦中 (寄附金控除型)

乳がんの早期検診をもっと身近に。 マンモグラフィ更新に向けてご寄付を

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。

日本人女性の乳がん罹患数は、がんの中で最も多く、日本女性の9人に1人が乳がんになる時代と言われています
※1。乳がんは早期に発見すれば90%以上の生存が期待できるため※2、乳がん検診は重要です。

当院では、これまで有田圏内にはなかった「乳腺外科」を2023年度に開設いたしました。現在は、女性技師2名が検査にあたり、女性が受診しやすい環境づくりに努めています。乳腺外科を開設後、当院におけるマンモグラフィの検査数も年々増加しております。

しかしながら、現在検査に使用しているマンモグラフィの機器はサポート終了時期を迎え、買い替えが必要となっています。修理や復旧が発生してしまう場合、患者様へのご負担は避けられません。加えて、昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大や物価高騰により、当院の力だけで買い替えを行うことは容易ではないため、この度のクラウドファンディングへの挑戦を決めました。

クラウドファンディングを通して、当院の取り組みや乳がん早期発見の重要性を知っていただき、一人でも多くの方にマンモグラフィ検診を受診いただける環境を作っていきたいと考えています。ひいてはこの取り組みが地域の乳がん早期発見につなげることができれば嬉しく思います。

皆様からのあたたかいご寄付をどうぞよろしくお願いいたします。

※1 国立研究開発法人国立がん研究センター、最新癌統計

※2 (c) 国立研究開発法人国立がん研究センター・院内がん登録生存率集計結果閲覧システム 乳がん5年生存率



済生会有田病院 レディーフォー

クラウドファンディングに関するお問合せは、済生会有田病院まで直接ご連絡ください。

EMAIL : shimizu@saiseikai-arida.jp TEL : 0737-63-5561 担当 : 塩貝・清水

<https://readyfor.jp/projects/saiseikai-arida>



作ってあげる姿も。そうした子どもたちの遊び方にも成長を感じます。これからも自然の中でのびのびと活動し、充実した園生活を送ってほしい。

(山形・はやぶさ保育園 済生記者 齋藤里奈)

★カブトムシ取りや川遊び……自然の中での遊びは、幼少期のわくわくな思い出として鮮明に覚えています。(メデイカル・リーフ 富谷咲希)

あっ、ここにも！

屋上庭園に桃が実りました

(東京) 中央病院13階のリハビリテーション室の隣には、屋上庭園があります。2022年7月に病院互助会が整備。職員アンケートをもとに和風庭園のように設計され、済生会の紋章であるでしこの花をはじめ、桜やハナミズキ、ツツジなど色鮮やかな多種多様な植物が植えられています。

この夏、この庭園でうれしい発見が。植樹から2年目にして、桃の木に初めて桃が実ったのです！サイズは小ぶりですが、第一発見者。はりハビリテーション技術科の松本徹科長で、庭園に広がるさわやかな香りで桃の存在に気づいたんだとか。

屋上庭園は、職員が休憩に、入院

アンケートにご協力ください

機関誌「済生」をご覧いただきありがとうございます。本誌に対する満足度やニーズを把握するため読者アンケートを実施しています。二次元バーコードからご回答をよろしくお願します。皆さまからのご意見を参考にして「済生」を編集してまいります。

(編集部一同)



患者さんがリハビリ等に使用する憩いの場となっています。

(東京・中央病院 済生記者 鈴木香純)

★香り、食感、味……何をとつても桃は最高です。ひとまず収穫の日時が決まったら教えてほしいです。

(メデイカル・リーフ 岩谷純一)

済生 [令和6年10月号]

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和6年10月10日発行

通巻第1144号 (第100巻第10号)

編集兼
発行人 炭谷 茂

発行所 社会福祉法人 済生会

〒108-0073

東京都港区三田 1-4-28

三田国際ビルディング 21階

TEL : 03-3454-3311 (代)

FAX : 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋

東京都中央区八丁堀 4-4-1

© 社会福祉法人 済生会

済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために治療による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団済生会を創立した。

以来今日まで113年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施業救済」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団済生会となっている。

職員数は全国で約6万6000人。

総裁	秋篠宮皇嗣殿下
会長	潮谷義子
理事長	炭谷 茂
本部	東京 支部 40都道府県
診療所	83
介護医療院	20
介護老人保健施設	2
介護施設	1
児童福祉施設	25
老人福祉施設	119
障害者福祉施設	9
看護師養成施設	7
訪問看護ステーション	66
地域包括支援センター	31
地域生活定着支援センター	5
その他	9
合計	405 (数字は令和5年度)

さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の58島の診療活動に携わっている。